

椋山女学園大学

文化情報学部

履修の手引

2023

卒業まで
使用します

— 椋山女学園大学憲章 —

地域に根ざした伝統ある女子教育で

豊かな知性と情操を育み

凛として輝く人となる

椋山女学園大学は、1905年に創始された学園の伝統と教育理念「人間になろう」の下、女子教育の先駆者として、多彩な人材を育成してきました。わたしたちの教育は、ここで学ぶ女性が時代の変化とともに自身の役割を見据え、創造し獲得した知を活かし、人を大切に、人と支えあい、自らががんばれる人となることをめざします。本学は、このような女子教育を使命とし、ここに大学憲章を宣言します。

○わたしたちの教育

1. 明るくのびやかな人間的魅力に溢れる女性を育成します
2. 実学と教養を身につけ、豊かな人間関係の中で自立し、人々と協同する力を育みます
3. 一人ひとりを大切にしたい教育を実践するための体制や環境を整備します

○わたしたちの研究

1. 学生の興味と関心を育む魅力ある教育につながる研究に努めます
2. 最新の理論や技術を求め、それを活かした研究を推進し、身近な生活課題にも応えます
3. 学術研究の倫理を遵守し、高い誇りをもって研究を遂行します

○わたしたちの社会貢献

1. すぐれた卒業生を輩出し、地元の発展や持続可能な社会の形成に寄与します
2. 教育研究活動の成果を通して、社会的課題の解決に貢献します
3. 学びの門戸を卒業生や社会人にも拓けます

平成28年9月30日制定

学生支援に関する方針

教育理念「人間になろう」の下、椋山女学園大学憲章の「わたしたちの教育」を実現するため、修学支援、生活支援及び進路支援に関する方針を定め、その方針に沿って学生支援を行っていきます。

修学支援方針

- ・学生の豊かな人間性を育成できるよう支援します。
- ・学生の学修に係る支援、相談体制を整備し、教職員が一体となって支援します。
- ・学生の修学環境を整備します。
- ・学生の各種免許・資格課程取得の支援を行います。

目 次

第1部 履修要項

1. 授業	1-2
2. 単位	1-5
3. 履修登録	1-7
4. 試験及び成績評価	1-11
5. GPA 制度	1-16
6. 教養教育科目の履修	1-18
7. 他学部・他学科開放科目の履修	1-21
8. 他大学科目の履修(愛知学長懇話会単位互換事業)	1-22
9. 研究倫理	1-24

第2部 履修ガイド

1. 教育理念と教育目的	2-2
2. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)	2-4
3. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)	2-6
4. 育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング	2-8
5. 文化情報学部教育理念と学びの特色について	2-19
6. カリキュラムの趣旨と概要	2-22
7. 卒業資格について	2-30
8. 授業科目学年配当表	2-32
9. 外国語検定による単位認定制度	2-39
10. 情報系検定による単位認定制度	2-40
11. 教職課程	2-42
12. 学芸員	2-52
13. 日本語教員	2-54
14. 司書	2-56
15. 司書教諭	2-58
16. 社会調査士	2-60

【教員組織(紹介)】

専任教員	2-62
兼任教員	2-64
非常勤講師	2-65

第1部

履修要項

1. 授業時間

学期は前期・後期の2期とし、各期は15週とします。各週は月曜日から土曜日までを授業日とし、授業時間は次のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:10 } 10:40	10:50 } 12:20	13:20 } 14:50	15:00 } 16:30	16:40 } 18:10

2. 授業の出欠席

1) 授業は原則としてすべて出席することが求められます。欠席が授業回数の3分の1以上のときは、その授業科目の単位が与えられません。

また、本学では「公欠制度」はありません。欠席の扱いは各教科の担当教員に一任されているので、欠席理由のある場合は、直接担当教員に申し出てください。ただし、数週間にわたる入院など、教員と連絡を取ることが不可能な場合は、教務課(係)がこれに代わることがあるため、早期の連絡を心がけるようにしてください。

2) 授業の出欠確認は、①氏名点呼による確認、②受講票・出席カード等の提出による確認、③指定座席表の着席による確認、④小テストやレポート等課題物の提出による確認等、各教科の担当教員の判断により行います。

出欠確認の不正が確認できたときは、依頼者、実行者とも、厳正に対処します。

3. 授業の種類

1) 必修科目と選択科目

必修科目 卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目

選択必修科目 複数科目の中から所定の単位を修得しなければならない科目

選択科目 適宜自由に選択して単位を修得する科目

2) 授業の形態

半期授業 前期又は後期に開講され、半期で受講が完了する授業

通年授業 1年を通じて開講される授業

隔週授業 1週間おきに開講される授業

隔年授業 1年おきに開講される授業

集中授業 半期又は通年で開講される科目であるが、一定期間にまとめて開講される授業

4. 休 講

学内行事や教員の公務、学会参加、病気等により、授業が休講となる場合、担当教員からの連絡があり次第、S*map 授業情報又は掲示にて通知します。

休講の通知がなく、始業時間から30分以上経過しても担当教員の教室への出講がない場合には、教務課(係)の指示に従ってください。

補講を行う場合は、別途通知します。

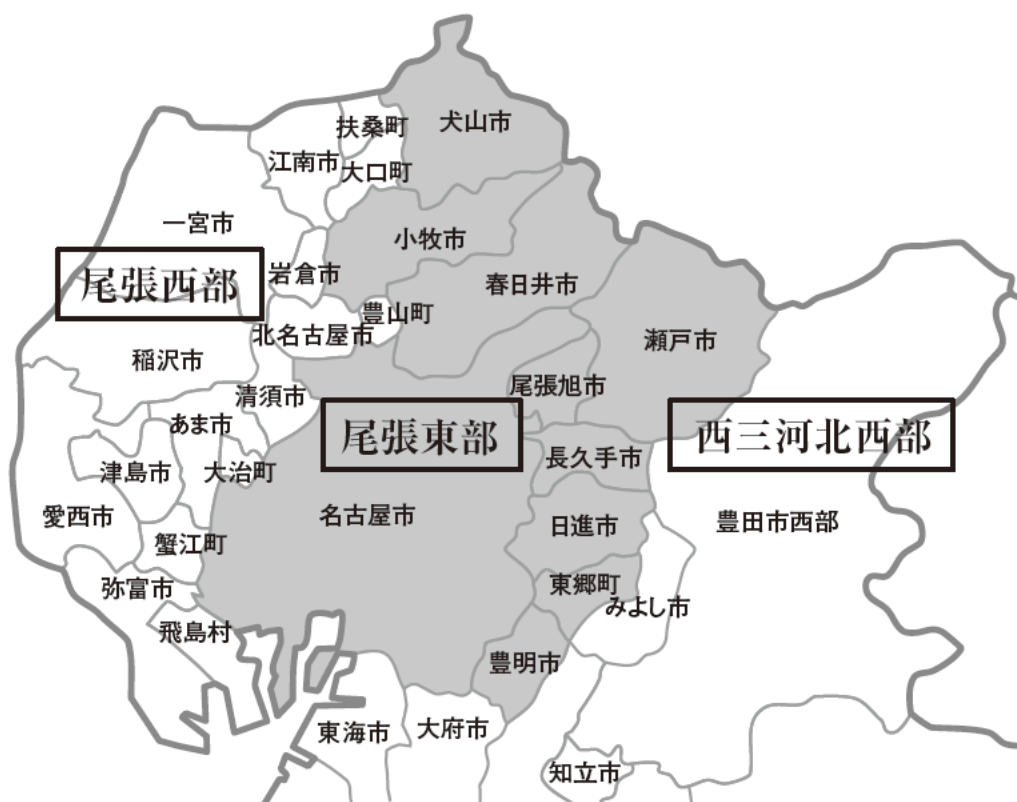
災害など緊急時における授業及び試験等の休講措置

台 風		
愛知県尾張東部地域又は、同地域内のいずれかの市町村において暴風警報が発令された場合	午前7時前（7時を含まない）に解除された場合	通常どおり
	午前7時現在で発令されている場合	1・2 限休講
	午前11時現在で発令されている場合	すべて休講
在校中、上記地域に暴風警報が発令された場合	授業や試験又は大学行事は、大学の指示により、休講又は中止となります。	

■注意事項

1. 暴風警報が通学範囲内に発令されている場合、学生は登校を控えてください。
2. 暴風警報以外の警報発令時において交通機関が運休した場合、又は身体の危険を感じた場合も、学生は無理な登校をしないでください。
3. 以上の場合には後日、遅滞なく担当教員に申し出てください。

- 尾張東部地域：名古屋市、瀬戸市、春日井市、犬山市、小牧市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町



地震

南海トラフ地震臨時情報（調査中）が発令された場合			災害対策本部からの指示があるまで待機してください。 授業や試験又は大学行事がある場合は指示があるまで中断となります。
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒／巨大地震注意）が発令された場合	在校中の場合	授業や試験又は大学行事は直ちに打ち切られます。 避難については教職員の指示に従ってください。	授業再開など、その後の対応はホームページ、S*map、災害伝言ダイヤルなどで案内します。
	在校中でない場合	授業や試験又は大学行事を中止あるいは延期します。 登下校中の場合は直ちに帰宅してください。ただし、状況に応じて大学又は最寄りの避難場所に避難してください。	

交通機関のストライキ

名鉄（電車・バス）、名古屋市営交通（地下鉄・バス）のいずれかが、ストライキを実施した場合	午前7時前（7時を含まない）に解除された場合	通常どおり
	午前7時現在でストライキが継続している場合	1・2限休講
	午前11時現在でストライキが継続している場合	すべて休講

交通機関の運休等の場合

何らかの事情により交通機関が運休となる場合	授業や試験又は大学行事は、大学の指示により、休講又は中止とする場合があります。
-----------------------	---

※授業や試験又は大学行事中に休講又は中止となった場合は、各授業担当者又は大学行事の担当教員に出席を報告した後に帰宅してください。

1. 単位制

大学における教育課程は、単位制を採用しています。

単位制とは、各科目について一定の基準で定められている単位を修得する制度のことです。単位は、授業科目を履修し、筆記試験やレポートその他の方法で試験に合格することにより与えられます。

2. 単位数

1) 単位の計算は以下のとおりです。

科目の種類	単位計算基準	単位数	
		半期	通年
講義	毎週2時間（時間割における1コマ）の授業×15週 （通年で完了する科目は30週）	2	4
外国語		1	2
演習		1又は2	2又は4
実験 実習	毎週3時間（時間割における1.5コマ）の授業×15週 （通年で完了する科目は30週）	1	2

※一部上記と異なる計算をする科目もあります。単位の詳細は学則をご覧ください。

2) 1年間の授業は前期・後期の2期にわかれ、各期15週で完了します。各授業科目の所定の単位は、前期（15週）又は後期（15週）で与えられます。

ただし、通年（2期）で完了する授業科目の単位は、その年度末に与えられます。

3) 各授業科目の単位数は、学則第21条に規定するように、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とし、次の基準により計算します。つまり、授業の時間とは別に、授業時間外の自学自修が前提とされていますので、単位修得のためにはしっかり学修に励んでください。

授業形態	単位数	必要な学修時間の計	授業時間数	授業時間外学修（事前・事後学修等）
講義	2単位	90時間	週2時間×15週=30時間	90-30=60時間
演習	1単位	45時間	週2時間×15週=30時間	45-30=15時間
	2単位	90時間	週2時間×15週=30時間	90-30=60時間
実験・実習・実技等	1単位	45時間	週3時間×15週=45時間	（教員の設定する時間）
実習*	1単位	45時間	30時間	45-30=15時間
体育実技	1単位	45時間	週2時間×15週=30時間	45-30=15時間

※*印の実習=教育実習、学校体験活動、心理実習、ソーシャルワーク実習、保育実習、ふれあい実習、福祉ボランティア

※卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切であると認められる場合は、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めます。

4) 大学の行事又は担当教員の都合により、授業が休講となった場合には、原則として補講を行います。

3. 単位の認定

履修した科目の単位認定は、原則として、前期末・後期末に行われる試験に平素の学修状況を加味して行います。

試験は、その学期又は学年中に履修した授業科目について、筆記、口述、実技、論文提出等により行いますが、平常の成績をもって試験に代えることもあります。

また、単位の認定に際し、出席回数が不足していたり、あるいは途中で受講を放棄したような場合は、その科目は「失格」となり、単位の認定はされません。

4. 卒業に必要な 単位数

卒業資格を得るためには、4年以上在学し、所定の単位を修得する必要があります。

5. 学位

4年以上在学し、所定の単位を修得した者に対して卒業証書を授与し、次の学位を授与します。

学部	学科	学位名称
生活科学部	管理栄養学科 生活環境デザイン学科	学士（生活科学）
国際コミュニケーション学部	国際言語コミュニケーション学科 表現文化学科	学士（国際コミュニケーション学）
人間関係学部	人間関係学科 心理学科	学士（人間関係学）
文化情報学部	文化情報学科	学士（文化情報学）
	メディア情報学科	学士（メディア情報学）
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	学士（マネジメント）
教育学部	子ども発達学科	学士（教育学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）

1. 履修登録

履修登録とは、みなさんが授業を受けて単位を修得するために、所属する学部で定められたカリキュラムと時間割及びシラバス（授業内容一覧）に基づき、その年度の履修計画を立て、履修する科目を登録する手続きのことです。登録は、年度始めの所定期間内に終了しなければなりません。この登録を怠ると、授業科目の履修はできず、単位も認定されません。

なお、履修登録前に仮登録を必要とする科目があります。詳しくは教務関係ガイダンスで説明します。

- 1) 新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンスに必ず出席し、説明を受けなくてはなりません。
- 2) 各学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー及びカリキュラム・マップ）に従って履修計画をたててください。
- 3) 履修科目選択の参考となるように科目ナンバリングを実施しています。科目ナンバリングについては、「第2部 履修ガイド 育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング」を確認してください。
- 4) 単位が認定されるのは、履修登録した科目のみとなります。
- 5) 履修登録は、所定の期間内に限り、変更・追加・削除することができます。
- 6) 一度単位を修得した科目を、再び履修登録することはできません。

2. 年次配当

授業科目には、配当年次が指定されており、その年次に履修しなければなりません。ただし、やむを得ずその年次に履修することができなかつた場合は、指定されている年次が在学年次よりも下のものであれば、履修することができます。

なお、授業科目は、それぞれの学年の前期・後期又は通年にわたって開講されますので、履修計画をたてる際には注意してください。

3. 履修登録制限

- 履修規制単位数（その年度に履修できる単位数）を超えて履修登録はできません。
- 履修規制単位数には、卒業要件に関わらない「資格取得に関する科目」の単位数は含みません。また、「海外言語文化演習」など留学を伴う演習科目、インターンシップに関する科目、愛知学長懇話会単位互換事業として履修する科目についても含みません。（詳細は、教務課（係）に確認してください。）
- 前期に不合格又は失格となった科目の単位数も「履修規制単位数」に含まれます。したがって、後期にその分の履修科目を履修規制単位数を超えて追加することはできません。

4. 履修登録の時期

その年度に履修をする科目の履修登録は、「通年科目（1年間を通じて開講される授業）」「前期科目（前期に開講される授業）」「後期科目（後期に開講される授業）」のすべてを3月から4月の履修登録期間内に行います。

なお、後期授業開始前後に後期科目のみ追加登録、登録削除を行うことができます。

●履修規制単位数一覧（2023年度入学生）

学 科	1年次	2年次	3年次	4年次
管理栄養学科	49単位	49単位	49単位	49単位
生活環境デザイン学科	49単位	49単位	49単位	49単位
国際言語コミュニケーション学科	49単位	49単位	49単位	49単位
表現文化学科	49単位	49単位	49単位	49単位
人間関係学科	48単位	48単位	48単位	48単位
心理学科	48単位	48単位	48単位	48単位
文化情報学科	48単位	48単位	48単位	48単位
メディア情報学科	44単位	44単位	44単位	44単位
現代マネジメント学科	44単位	44単位	44単位	44単位
子ども発達学科	49単位	49単位	49単位	49単位
看護学科	49単位	48単位	48単位	48単位

正当な理由がなく、無断で履修登録の手続を怠った学生については、一切登録を受け付けません。

したがって、この場合は、その年次の履修ができず、単位も修得できません。

履修登録の流れ

新入生オリエンテーション・在学生ガイダンス

- 履修登録の説明を行います。

履修計画をたてる

- 「成績表（1年次はありません）」「時間割表」「Student Handbook」「履修の手引」「シラバス（授業内容一覧）」を参照し、1年間の履修計画をたてます。
- 履修登録期間は、受講科目を検討する期間でもあります。授業には初回から必ず出席してください。クラス分けを行う場合もあります。

「履修登録控」の作成

- 履修計画を立案し、「履修登録控」に記入してください。

S*mapから履修登録を行う

別冊の操作マニュアル(1年次に配付)を参照

- 完成した「履修登録控」をもとにS*mapから履修登録を行ってください。登録はパソコン・タブレット・スマートフォンを使用してください。
(注)S*mapのスマートフォンアプリからは履修登録できません。
- 登録後「履修登録確認票」を印刷又はPDF保存し、「履修登録控」と照合してください。

教員へ「受講票」の提出

- 「受講票」は、履修するすべての科目について作成し、履修科目の最初の授業（前期及び後期）で直接担当教員に提出してください。

履修登録科目の確定

- 「履修登録確認票」を再度印刷又はPDF保存し、記載内容を確認した上で履修登録の最終的な控えとして保管してください。
- 「履修登録確認票」は、履修登録の根拠資料となります。これをもとに受講者名簿が作成され、単位及び評価の認定が行われます。
- 訂正の有無にかかわらず、履修登録が確定した科目・単位数を確認してください。

履修登録控

学 年	学 期	履 修 科 目	単 位	履 修 状 況	備 考
1	前期	英語 I	2		
1	前期	数学 I	2		
1	前期	情報 I	2		
1	前期	体育 I	1		
1	前期	音楽 I	1		
1	前期	美術 I	1		
1	前期	外国語 I	2		
1	前期	総合 I	2		
1	前期	保健体育 I	1		
1	前期	芸術 I	1		
1	前期	その他			
1	前期	合計	14		
1	後期	英語 II	2		
1	後期	数学 II	2		
1	後期	情報 II	2		
1	後期	体育 II	1		
1	後期	音楽 II	1		
1	後期	美術 II	1		
1	後期	外国語 II	2		
1	後期	総合 II	2		
1	後期	保健体育 II	1		
1	後期	芸術 II	1		
1	後期	その他			
1	後期	合計	14		

履修登録確認票

学 年	学 期	履 修 科 目	単 位	履 修 状 況	備 考
1	前期	英語 I	2		
1	前期	数学 I	2		
1	前期	情報 I	2		
1	前期	体育 I	1		
1	前期	音楽 I	1		
1	前期	美術 I	1		
1	前期	外国語 I	2		
1	前期	総合 I	2		
1	前期	保健体育 I	1		
1	前期	芸術 I	1		
1	前期	その他			
1	前期	合計	14		
1	後期	英語 II	2		
1	後期	数学 II	2		
1	後期	情報 II	2		
1	後期	体育 II	1		
1	後期	音楽 II	1		
1	後期	美術 II	1		
1	後期	外国語 II	2		
1	後期	総合 II	2		
1	後期	保健体育 II	1		
1	後期	芸術 II	1		
1	後期	その他			
1	後期	合計	14		

受講票

履修の授業時刻に担当教員に提出すること

期別(○を記入)	前期	後期	その他
履 修 科 目			
履 修 単 位			
学 年			
学 期			
学 籍 番 号			
ふりがな			
出 席 欄 (教員記入欄)			

シラバスの活用

シラバスとは、授業を担当する教員が、その授業科目の達成目標や概要、成績評価方法、授業計画について記載した文書です。みなさんが履修する科目を選択したり、学修計画を立てる拠り所となるものです。大学での学びを有意義にするためにシラバスに記載されている授業内容をよく理解し、各回の授業内容の確認や予習復習など事前準備をして授業に臨みましょう。

Syllabus Saitama University Syllabus System

シラバス内容

※「育成する能力」は、2016年度以降シラバスからの表示項目です。
 ※「履修へのフィードバック」は、2017年度以降シラバスからの表示項目です。

授業テーマ

授業の到達目標 / 育成する能力
 この授業を受けることのような能力が身につくか、何ができるようになるかが確認できます。専門教育科目では、「第2部 履修ガイド」のカリキュラム・マップに記載の育成する4つの能力を確認できます。

授業内容
 何を学ぶかが説明されています。

評価方法と成績基準
 試験や評価の方法、成績基準が示されています。

担当教員メッセージ
 受講生に望むことや事前に留意しておくことなどが書かれています。

履修上の注意
 この授業を受けるにあたっての事務連絡などが書かれています。

授業科目名 [Course]	食品学実験 I								
担当教員 [Lecturer]	飯田 敏子 / 長谷川 淑己								
授業科目区分 [Classification]	専門教育科目								
単位数 [Credits]	1単位								
授業区分 [Lecture Classification]	実験・実習								
開講学科 [Department]	管理								
学生 [Year]	1年生								
開講期 [Semester]	後期								
曜日・時間 [Day-Period]	後期 月曜日 3時限								
科目ナンバー [Number]	LN21-FH-021								
授業テーマ [Title]	食品分析に必要な基礎知識、分析機器の操作、試薬の調製法、実験の進捗の仕方を考え実践し、得た実験結果を解析・考察し、レポートを作成する。								
授業の到達目標 [Objectives]	前期「食品分析学」で修得した基礎知識をベースに、食品分析の手順と実験機器の操作技術を指導、指定濃度の試薬、試料調製や分析の原理を理解し、実験を通じ得られた結果を解析、実験ノートとして完成できる。								
育成する能力 [Usability to improve]	<table border="1"> <tr> <td>知識・理解 [factual knowledge and understanding]</td> <td>思考・判断 [thinking faculty and discernment]</td> <td>態度・志向性 [perspective and intentionality]</td> <td>技能 [skill and ability]</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	知識・理解 [factual knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能 [skill and ability]		○		
知識・理解 [factual knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能 [skill and ability]						
	○								
授業内容 [Course Contents]	必要な知識と技術の基礎を講義形式で復習後、各実験毎に解説とデモを行い、グループで例題の実験を実施する。目的、実験手順とレポートに記載し、考察を加える。他人が実験を再度できることを前提とした実験ノートを作成する手法を会得する。 1 実験授業の意義・概要・注意事項などを、食品分析学講義を振り返りながら解説する。(食品分析学授業を履修しておくこと) 2 実験に必要な基礎技術と知識を修得する。(ピペット操作、テーパーの扱いなど、精緻的な実験と、授業後の確認に注意すること) 3 基礎技術として、ピペット、天秤操作の修得、ピペット・天秤などの扱いなど精緻的な実験と、授業後の確認に注意すること 4 中和滴定実験を通じ、中和反応の理解、濃度分析学を復習し、酸・アルカリ濃度決定方法を理解しておくこと 5 食品中の糖の検出と定量測定のための中和滴定実験を履修し、デモ・アルカリ濃度決定方法を復習しておくこと 6 滴定に利用される反応の解説と次期滴定実験とを兼ねたものとして滴定実験の解説、(中和滴定・次期滴定の復習しておくこと) 7 色に関する課題と、比色分析の原理を講義し、デモ見学と分光光度計操作を修得する。(食品分析学で学んだ比色分析を復習しておくこと) 8 比色分析の原理を復習し、塩メタノール溶液の調製と測定を実施する。(学んだ、後見習い成分と中和滴定試料の定量手順を復習しておくこと) 9 清涼飲料水中の還元糖及びグルコース比色定量を復習し、比色分析の試料の扱いを学ぶ。(学んだ復習しておくこと) 10 実施した比色分析実験を振り返り、定量実験を復習し理解する。(関連した課題を解き、理解を確固としておくこと) 11 これまでの知識と技術により、シロップ質の比色定量実験を、事前デモ無しで各自で実施する。(実験を通じ、理解不足の箇所を確認し、分からない点の質問と理解を講義とデモで復習する。(濃度及び分析精度を高めること、本復習しておくこと) 12 TLICによるアミノ酸の定性実験を通じ、未知試料のアミノ酸を決定する。(操作の復習に努めること) 13 TLICによるアミノ酸の定性実験を復習し、未知試料のアミノ酸を決定する。(操作の復習に努めること) 14 TLICによるアミノ酸の定性実験を復習し、未知試料のアミノ酸を決定する。(操作の復習に努めること) 15 実験授業のまとめを講義し、演習を通じ理解度を高める。(演習でできなかったところを復習しておくこと)								
授業の進め方 [Method]	毎回の授業開始時総合的に解説を行い、最後に総合評価と解説と今後必要なことを講義する。個々の実験に関しては、講義(実験の原理・注意)とデモ見学と見学を通じ、理解の上グループで実験を行う。全員が全ての操作に参加出来る内容を準備している。実験後は結果なども参考に考察を加える。								
講師へのフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	実験ノートを作成し提出し、返却されたノートから実験の復習・改善点およびレポートの作成方法を学ぶ。								
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	授業姿勢と集中度(30%)、実験ノートの作成(70%)から総合評価する。								
授業時間外学修(事前・事後学修等) [Preparation/Review]	一回目の授業で配布する実験資料冊子をよく読み、毎回予習する。場合によっては、実験ノートに実験手法フローチャートを作成してから実験に臨む。実験終了後は、グループで行った実験の個人の結果、他グループの結果と比較考察し、原理・操作・結果に対し論理的に考察を加え、積極的に実験に参加し、内容を自分のものとする。								
担当教員メッセージ(受講生に望むこと) [Message to Students]	毎回の実験課題を習得するためには、その実験の目的、方法、原理などについて事前に調べて授業に臨むことが重要である。知識、技能習得と安全のために必ず予習してから授業に臨むこと。								
履修上の注意 [Notes]	実験は、主にグループで行う。欠席は能力低下。また、実験操作に積極的に参加することが重要となる。化学実験を行う場合には、各種試薬の性質を知り、また、器具類の基本的な操作法を知ることが必要である。これを怠ると重大な事故につながる危険がある。								
キーワード [Keyword]	実験器具、実験機器、検査機、希釈倍率、実験ノート、食品化学、食品学、食品分析学、化学								
教科書 [Textbook]	青柳保夫 他著「トップクス実験シリーズ 食品学実験」建学社...前期「食品分析学」で使用する。								
参考書 [Supplementary Materials]	事前配布の「食品学実験」資料、配布 冊 等 共 著 者 : イラスト等								
担当教員の業務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]									

基本情報
 授業科目名、担当教員、単位数、学年、開講曜日時限など。

授業計画
 各回の授業内容が書かれています。また、予習・復習についても示されている場合があります。

授業の進め方
 どのように授業を進めるかが書かれています。

授業時間外学修(事前・事後学修等)
 全体を通しての予習・復習や授業に臨むに当たっての心構えなどが書かれています。

キーワード

教科書：授業で使用するテキストです。
参考書：参考書は必要に応じて購入したり図書館で借りるようにしましょう。

1. 試験について

試験には定期試験、追試験、再試験があり、筆記試験・レポート提出・実技試験などの方法で行われます。試験の結果は、S*mapの「履修科目合否表」で確認することができます。必ず自分で確かめてください。(以下を参照)

《単位認定及び追試験・再試験に関する内規》

試験(筆記、レポート、提出物、実技、実験、実習等をいう。以下同じ。)

- 定期試験 → 授業が完結した学期の終わりに実施する試験で、単位認定・成績評価の基準とする。
- 追試験 → 定期試験を病気その他正当と認められる事由で欠席した者に対して行われる試験である。追試験を受けようとする者は、「追試験願」に診断書又は欠席事由を証明できるものを添えて、当該試験期間終了後5日以内(休日は含まない。)に教務課(係)に提出しなければならない。上記の手続後、教務委員会の許可を得て、追試験施行の掲示に従って受験することができる。追試験を欠席した者、追試験で不合格となった者には再試験は実施されない。

*追試験の理由となる例とその提出書類

欠席事由	必要書類
病気又はけが ^{※1}	医師の診断書 ^{※2} 、入院証明書、その他各学部教務委員会が適当と認める書類
公共交通機関の遅延	駅等で発行する証明書(遅延証明書等)
不慮の事故(交通事故等)、災害(火災等)	警察署の事故証明書、被災証明書、その他事実を明らかにする書類等
2親等以内の親族の不幸 ※適用期間は死亡日又は葬儀の日から起算して次のとおりとする。 ・配偶者及び1親等 連続7日以内(休日を含む。) ・2親等 連続3日以内(休日を含む。)	通夜、会葬を証明できるもの又は死亡に関する公的証明書(会葬礼状等)
裁判員制度に係る事項	裁判所が発行する証明書
資格に係る実習等	各種委員会委員長又は学科主任が発行する証明書
公務員試験及び教員採用試験	受験証明書又は受験票(写し)
就職試験	受験を証明する書類 ^{※3}
教務委員会で許可された研修等	審議願、参加証明書等
本学が認定するインターンシップ	大学と実習先との覚書(写し)

※1 病気には、学校保健安全法施行規則に定める、第一種感染症患者が発生した家に居住する場合及び同感染症発生地域に居住地域的外出禁止となった場合を含む。

※2 診断書には、欠席をした日付・期間が明記してあること。

※3 郵送等による通知書面、メール案内文書、web予約画面、受験証明書等、欠席をした日付が明記してあること。

○再試験 → 成績評価判定が不合格（評価D）となった者に対して実施されることがある（再試験実施の有無は、別途通知）。再試験の結果は、C（合格）またはD（不合格）・欠（欠席）とする。

再試験を欠席した者、再試験で不合格となった者には再度の試験は実施されない。

再試験の受験には、再試験願を定期試験の可否発表開始日及びその翌日（休日を除く）に教務課（係）へ提出しなければならない。

2. 試験時間帯

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:10	10:50	13:20	15:00	16:40
∫	∫	∫	∫	∫
10:40	12:20	14:50	16:30	18:10

3. 試験時間割

試験に関する時間割は、平常授業と曜日・時間帯・教室が異なることもありますので、特に注意が必要です。

- 1) 定期試験 試験期間の1週間前までに通知します。
- 2) 追試験 定期試験可否発表日に通知します。
- 3) 再試験 定期試験可否発表日に通知します。

4. 受験資格

次のいずれかに該当する者は、受験資格がありません。

- 1) 履修登録をしていない者
- 2) 学生証（仮学生証）を所持していない者
- 3) 受験する科目の授業を3分の1以上欠席している者
- 4) 休学中の者
- 5) 追試験において受験許可を得ていない者
- 6) 再試験において再試験手続を行っていない者
- 7) その他受験資格に欠格があると認められた者

5. 受験注意

受験に際しては、以下のことに注意し、試験室の掲示等指示に従ってください。

- 1) 試験開始後30分以上遅刻した場合は受験できません。
- 2) 試験開始後35分を経過するまでは退出できません。
- 3) 試験中は、学生証を監督者が確認しやすい位置に置いてください。
- 4) 試験中机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及び授業担当者が許可したものに限りです。
- 5) 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等、通信機能を持つ機器の使用は認められませんので、電源は切って、かばんの中に入れてください。
- 6) 試験中は監督者の指示に従ってください。

（注）以上の事項に関して監督者（代理も含む。）から別の指示があった場合は、その指示が優先されます。

6. レポート

科目によって、レポートの提出により成績評価を行う場合があります。

<提出方法>

- ・担当教員が提出方法、日時を指示し回収する場合はそれに従ってください。
- ・レポートの用紙、形式については指示に従ってください。
- ・レポートには必ず所定の表紙（S*map のキャビネットからダウンロードできます）をつけ、原則として左上1個所で綴じます。

7. 不正行為

定期試験、追試験又は再試験において不正行為等（以下のものをいう。）を行った場合は、「試験中の不正行為に関する懲戒規準」によって処分されます。（諸規程を参照）

【筆記試験の場合】

- 1) 当該試験科目に関係するカンニング用の紙片、授業に関連した情報が入力されている情報機器等の不正行為に使用できる物を使用可能な状態で所持する行為
- 2) 隠し持ったカンニング用の紙片若しくは他人の答案を見て、又は情報機器等を使用して解答する行為
- 3) 他人に代わり受験し、又はこれを依頼する行為
- 4) 試験監督の指示に従わない行為
- 5) その他試験に関し不正行為と見なし得る行為

【レポート、作品等の場合】

- 1) 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに流用する剽窃行為
- 2) 他人が作成したレポート等を、自己の名前又は前後関係や語句等を書き換えて提出する行為
- 3) レポート等の作成を代行する企業又は個人等の他者に作成を請け負わせ、納品物を自己が作成したものとして提出する行為
- 4) データの捏造、改ざん等を行う行為
- 5) その他公正な成績評価を妨げると認められる行為

試験において不正行為を行い、訓告、停学又は退学の懲戒を受けた者は、その試験期間内に実施した全科目（訓告の場合は当該科目のみ）の成績が「失格」評価となり、追試験、再試験を受験することもできません。また、懲戒処分の対象とならない場合においても、授業担当教員により成績評価に反映されます（減点又は「失格」評価として取り扱う）。

授業中・試験期間外に実施される（小）筆記試験や（小）レポートに不正行為があった場合においても授業担当教員により成績評価に反映されます（減点又は「失格」評価として取り扱う）。

8. 成績評価基準

成績評価基準は、次のとおりとします。

判定	評語	評価の基準	
合格	S又は㉔	100点～90点	当該事項の到達目標の内容をほぼ完全に理解し、説明できるものと認められる。
	A又は㉕	89点～80点	当該事項の到達目標の内容を十分に理解し、説明できるものと認められる。
	B又は㉖	79点～70点	当該事項の到達目標の基幹部分は理解し、説明できるものと認められる。
	C又は㉗	69点～60点	当該事項の到達目標のうち、最低限の部分は理解し、説明できるものと認められる。
不合格	D	59点以下	当該事項の到達目標に及ばない。
失格	失	授業を3分の1以上欠席している場合	
		授業又は試験において不正行為があった場合	
欠席	欠	試験の受験資格を有するが、受験しなかった場合	
認定	N又は㉘	他大学で修得した単位及び資格の取得等により本学の成績基準で読み替えができない場合の単位認定科目	

(注) 丸つき評語は、外国の大学において修得した授業科目の評価を本学の授業科目を単位修得したものとみなして単位認定する場合に使用する。

9. 成績評価に関する調査

試験の成績評価又は不合格に対して疑問がある場合は、指定期間内に教務課（係）に疑問調査を願い出ることができます。

追試験・再試験手続

追試験

再試験

定期試験実施

正当な事由で欠席

- 履修登録科目でかつ受験資格のある科目に限ります。

追試験願の提出

- 試験期間終了後5日以内に教務課(係)にて「追試験願」に記入し、診断書又は欠席事由の証明できる書類を提出。
- 電話での受付は行いません。
- 学生証持参のこと。

追試験願(学生控兼受験票)の受領

- 追試験願(学生控兼受験票)が受験票になりますので紛失しないように、各自で大切に保管してください。再発行は行いません。
- 試験当日追試験願(学生控兼受験票)を提示すること。

合否発表・試験時間割発表

- 成績が「欠」になっているか、教室・日程・課題の配付等ないか確認してください。

追・再試験受験

追・再試験合否発表

- ・追・再試験の合否発表は別途お知らせします。
- ・受験に関しては、定期試験の受験注意に従ってください。

合否発表

- S*mapにて確認。電話での問合せには応じません。

不合格(D評価)がある

再試験日程の発表

- 再試験時間割に記載されている科目のみ再試験が行われます。定期試験合否発表日にお知らせします。

再試験願の提出

- 「再試験願」を教務課(係)窓口で受け取り必要事項を記入し、再試験料を証明書自動発行機で納入のうえ提出。学生証持参のこと。
- 申込みは合否発表開始日及びその翌日とする(休日は除く)。
- 希望者は筆記試験・レポート(課題提出)とともに手続を行うこと。

再試験願(学生控兼受験票)の受領

- 再試験願(学生控兼受験票)は紛失しないように、各自で大切に保管してください。再発行は行いません。
- 試験当日再試験願(学生控兼受験票)を提示すること。

1. GPA制度とは

学修成果については、本学の定める成績評価基準に基づいて厳正な評価が行われています。科目の履修にあたっては、単位の修得のみならず、優れた成績を達成するよう努めなければなりません。皆さんが主体的に学修し、自らの学業成績を的確に把握して、適切な履修計画と学修への取り組みに役立つように、GPA制度を導入しています。

GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、履修登録科目の成績平均値を意味します。GPAは学修の質を評価する国際標準となっており、合格した科目だけでなく、不合格科目や履修放棄した科目もGPAの算出対象となります。

本学ではGPA制度を主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 学生自身による成績の認識、ならびに勉学に奮起するための動機付け
- 2) 履修科目の安易な届出と、途中放棄の防止
- 3) 奨学金授与等における判定
- 4) 進学及び就職活動等における推薦者の選抜基準

2. GPA導入の
意義

成績評価（S・A・B・C・D・失・欠）を成績値（グレード・ポイント＝GP）に換算してGPA（成績平均値）を出すことで、分かりやすく、対外的にも通用する成績評価となります。学生はGPAを知ること、学業成績の状況を的確に判断し、自らの学修に対して主体的に自己評価することができ、その後の履修計画を適切に立てられます。

< GPAによる学修支援 >

次のとおりGPAを基にした履修指導・進路指導等を行います。

- ① GPAによる履修指導の目安として、通算GPAが1.5以下又は当該半期のGPAが1.0以下の学生に対して、指導・助言等を行います。
- ② 上記①の履修指導を行ったにもかかわらず、修得単位数が著しく少ないことに加え、次期半期GPAが1.0以下の場合は、退学勧告を含めた履修指導・進路指導等を行います。
（ただし、本人及び学修・生活指導教員の意見を聴いた上で、成業の可能性があると判断されれば、この限りではありません。）

3. 不合格科目等
の取扱い

- 1) 失格となった科目、正当な理由なく試験を欠席した科目、成績評価がDとなった科目のGPはすべて0.0としてGPAの算出対象となります。
- 2) 追試験・再試験を受験した科目はその評価をGPに換算します。追試験・再試験で合格した場合、その評価が当該期のGPAに反映されます。不合格となった場合、その科目のGPは0.0として、当該期のGPAに反映されます。

4. GPAの算定基準

履修した科目の成績評価は、各科目で指定された成績評価の方法を基準に以下のよう
に判定され、S・A・B・C（合格）の場合、所定の単位が与えられます。

成績評価の基準を5段階（S、A、B、C、不合格・失格・欠席）で表し、それぞれに4.0・
3.0・2.0・1.0・0.0のGPを付与し、平均値を算出します。

判定	評語	成績評価基準	GP
合格	S	100点～90点	4.0
	A	89点～80点	3.0
	B	79点～70点	2.0
	C	69点～60点	1.0
不合格	D	59点以下	0.0
失格	失	—	0.0
欠席	欠	—	0.0

各科目の成績評価をGPに換算し、これに科目の単位数を掛けて、その合計単位数
を当該期で履修登録した科目^{*}の総単位数で割ったものがGPAとなります。

5. GPAの算出式

$$GPA = \frac{(4.0 \times S \text{の修得単位数}) + (3.0 \times A \text{の修得単位数}) + (2.0 \times B \text{の修得単位数}) + (1.0 \times C \text{の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

※「履修登録した科目」とは原則履修登録期間においてS*mapに登録された科目。

- GPAの算定基準日は原則前期9/20・後期3/31までに評価のあった成績を対象とします。
- インターンシップ及び海外演習系の科目についてはGPAの算出対象としません。
また、編入学、転学部・転学科、再入学、他大学との単位互換制度等による単位認定科目、卒業要件に含まない資格に関連する科目、履修登録削除の手続を認められた科目、その他当該学部で対象外と認められた科目についても除外します。
- GPAの確認方法はS*mapの成績確認用メニューの『履修科目合否表』と『成績表』から行います。『履修科目合否表』は前期・後期と通年の、『成績表』は当該年次までの通算GPAを記載しています。（『成績(単位修得)証明書』には記載されません。）
- 期の途中、やむを得ない理由で履修登録を削除したい場合は所定の期間において書面での手続が必要です。例) 長期にわたる入院・ケガ等により通学困難な場合

各期で算出されたGPA値はS*mapから合否表・成績表で確認できます。
活用方法については各学部の『履修ガイド』やガイダンス等でご確認ください。

1. 教養教育の
目的

教養教育は、教育理念「人間になろう」を実現するために、幅の広い教養を身につけ、豊かな人間性を育成し、社会的要請に対応しうる基礎的能力を育成することを目的としています。幅の広い教養とは、様々な学問成果の基本を理解し、21世紀のグローバル化時代に求められる異文化、自国の文化を理解し、諸問題に対応しうる社会的、市民的教養のことであり、これらの教養を高めることで、豊かな人間性の育成を図ります。また、社会的に要請されている基礎的能力として、具体的には社会で活躍できる基礎的能力、論理的思考力、コミュニケーション能力、メディア活用力を育成します。

2. 7つの領域

教養教育は7つの領域に分かれており、バランス良く修得することで、幅の広い教養を身につけ、豊かな人間性を養うことができます。7つの領域の目的は、次のとおりです。

領域1 思想と表現	人間の築き上げた思想、芸術、文化などとその受容の在り方を学び、人間の精神活動全般への理解を深めることによって、豊かな自己表現能力や判断力を育成します。
領域2 歴史と社会	現代に至るまでの人類の歩みや、社会のさまざまな仕組み・事象を総合的に理解することを通して、社会が直面する課題を具体的に把握し、問題を解決し、将来を展望することができる能力を育成します。
領域3 自然と科学技術	科学技術の進歩と発展により、豊かになった人間社会の中で、自然と科学技術への理解を深め、人間の生き方を選択・決定していく能力を育成します。
領域4 数理と情報	コンピュータの操作技術やマナー、情報処理システムの構造や原理、数理学の思考方法や解析方法の基礎を学び、現代社会において必要とされる情報処理の能力や技術、数理感覚を育成します。
領域5 言語とコミュニケーション	国際化の浸透する現代社会を生きるための基本的能力である、外国語コミュニケーション能力を育成します。
領域6 健康とスポーツ	充実した生活の基盤となる健康の保持増進を図るとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るための知識や技術を実践しながら体得します。
領域7 女性とキャリア	女性として社会で活躍できる基礎的能力・スキルを育成するとともに、自らライフデザインを描き、キャリアを形成するための基礎的能力を育成します。

3. 全学共通

本学では様々な分野の学問に触れることができる総合大学の利点を最大限活用し、学生が幅広い教養を学ぶことができるよう教養教育の再構築を進めてきました。そして、2015年度から教養教育科目を全学部で共通化し、原則としてみなさんは全ての教養教育科目を履修することができるようになりました。例えば、「歴史」の科目を受講したいと思った時、自分の学部の「歴史」だけでなく、他の学部の「歴史」からも選んで受講できます。

ただし、一部の科目については、受講者数等の都合上、他の学部で受講することはできません。

4. 履修方法

他の学部で開講されている教養教育科目が掲載された「時間割」は、新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンス（2年生のみ）の際に配付します。みなさんは、履修を希望する科目を、履修登録期間中にS*mapで登録する必要があります。ただし、受講希望者が、授業の定員数を上回った場合、受講者を抽選することがあります。（抽選は、その科目が開講されている学部の学生を優先します。）

5. 授業科目

*科目ナンバーのルールについては、第2部を確認してください。

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
思想と表現 領域1	哲学	2	1	ZK01-TE-010
	文学	2	1	ZK01-TE-020
	芸術	2	1	ZK01-TE-030
	心理	2	1	ZK01-TE-040
	言語	2	1	ZK01-TE-050
	人類学	2	1	ZK01-TE-060
歴史と社会 領域2	歴史	2	1	ZK01-HS-010
	法	2	1	ZK01-HS-020
	日本国憲法	2	1	ZK01-HS-030
	経済	2	1	ZK01-HS-040
	社会	2	1	ZK01-HS-050
	地理	2	1	ZK01-HS-060
	教育	2	1	ZK01-HS-070
自然と科学技術 領域3	物理の世界	2	1	ZK01-NS-010
	化学の世界	2	1	ZK01-NS-020
	環境の科学	2	1	ZK01-NS-030
	地球の科学	2	1	ZK01-NS-040
	生命の科学	2	1	ZK01-NS-050
数理と情報 領域4	数理の世界	2	1	ZK01-MI-010
	統計の世界	2	1	ZK01-MI-020
	コンピュータと情報Ⅰ	2	1	ZK01-MI-031
	コンピュータと情報Ⅱ	2	1	ZK01-MI-032

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
言語とコミュニケーション 領域5	外国語（英語A）	1	1	ZK01-LC-010a
	外国語（英語B）	1	1	ZK01-LC-010b
	外国語（英語C）	1	1	ZK01-LC-010c
	外国語（英語D）	1	1	ZK01-LC-010d
	外国語（ドイツ語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-021
	外国語（ドイツ語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-022
	外国語（フランス語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-031
	外国語（フランス語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-032
	外国語（中国語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-041
	外国語（中国語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-042
	外国語（ポルトガル語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-051
	外国語（ポルトガル語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-052
	外国語（スペイン語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-061
	外国語（スペイン語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-062
	外国語（ハングルⅠ）	1	1	ZK01-LC-071
外国語（ハングルⅡ）	1	1	ZK01-LC-072	
スポーツと健康 領域6	健康とスポーツの理論	2	1	ZK01-SP-010
	健康科学※	1	1	ZK01-SP-020
	スポーツ実習A	1	1	ZK01-SP-030a
	スポーツ実習B	1	1	ZK01-SP-030b
女性とキャリア 領域7	ファーストイヤーゼミ	1	1	ZK01-WC-010
	仕事学入門	2	1	ZK01-WC-020
	ライフデザイン	2	1	ZK01-WC-030
	ピア・サポート理論と実践	2	1	ZK01-WC-040
	キャリア形成実習Ⅰ	1	2	ZK01-WC-050a
	キャリア形成実習Ⅱ	1	2	ZK01-WC-050b
	ジェンダー論入門	2	1	ZK01-WC-060
	安全学	2	1	ZK01-WC-070
	日本語表現法基礎	2	1	ZK01-WC-080
時事問題の理解	2	1	ZK01-WC-090	

※「健康科学」は教育学部でのみ開講します。

※必修科目や領域ごとに必要な単位数等は、学部・学科で異なります。

※配当学年は、学部によって異なることがありますので、詳しくは第2部の教養教育科目のページを参照してください。

6. その他

詳しくは、新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンスで説明します。

1. 他学部・他学科開放科目の履修とは
- 他学部・他学科開放科目の履修（以下「他学部履修」という。）とは、自分の所属する学部（あるいは学科）以外の授業科目が履修できる制度です。他学部履修にあたっては、次のことに注意してください。
- ・ 学業と学外活動とのバランス
 - ・ これまでの単位修得状況
 - ・ 卒業要件との関連
 - ・ 将来の進路に必要と考えられる知識やスキル
 - ・ 研究対象への新たな視点・刺激
 - ・ 他学部履修に関するルール等

各学部の『履修の手引』及び『他学部・他学科開放科目時間割』は教務課及び日進キャンパス事務課、S*mapのキャピネットで確認することができます。

2. 履修上の注意
- 1) 履修登録にあたり、自身の所属する学部で規定された履修規制単位数を超えて履修することはできません。
 - 2) 履修できる科目は、他学部・他学科開放科目時間割に記載されている科目に限ります。

3. 修得した単位の取扱い
- 修得した単位は、卒業に必要な単位数に含まれます。修得単位は「(自由選択)」として認定されますが、認定方法は所属する学部によって異なります。

卒業に必要な「(自由選択)」の最低修得単位数に含むことのできる上限は次のとおりです。

学科	含むことのできる単位数
管理栄養学科	(自由選択) 0単位のうち0単位
生活環境デザイン学科	(自由選択) 14単位のうち8単位
国際言語コミュニケーション学科	(自由選択) 24単位のうち12単位
表現文化学科	(自由選択) 24単位のうち12単位
人間関係学科	(自由選択) 20単位のうち8単位
心理学科	(自由選択) 20単位のうち8単位
文化情報学科	(自由選択) 18単位のうち12単位
メディア情報学科	(自由選択) 19単位のうち12単位
現代マネジメント学科	(自由選択) 10単位のうち10単位
子ども発達学科	(自由選択) 10単位のうち10単位
看護学科	(自由選択) 0単位のうち0単位

※この上限単位数は、学則第20条の2から第20条の5までに規定する他の大学等において修得した単位数の合計（国際コミュニケーション学部は教育職員免許状取得に関する科目を含む。）

4. 履修登録・方法
- 履修登録は通常の科目と同様S*mapより行います。ピンク色の受講票を教務課(係)で受け取り第1回目の授業で担当教員へ提出してください。

※必ず第1回目の授業から出席し、ガイダンスや諸注意を受けてください。受講希望者数によっては、他学部履修者は受講制限されることがありますので予めご了承ください。

1. 愛知学長懇話会
単位互換事業
- 愛知学長懇話会単位互換事業は、愛知県内すべての4年制大学が加盟する「愛知学長懇話会」において締結された「単位互換に関する包括協定」により、加盟大学に所属する学生が他の大学で開講される科目を履修し、所属する大学の単位として認められる制度です。
- 愛知県の大学に在学するメリットの一つとして、ぜひ活用してください。
- 受講料は、包括協定に基づき「無料」です。
- （ただし、科目によっては、実験・実習等に必要な実費が必要な場合があります。）
2. 出願資格
- 本協定加盟大学の学生は、愛知学長懇話会ホームページ（<https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp>）に記載された科目の受講が可能ですが、それぞれが定める「出願資格」「履修条件」を満たしていることが必要です。所属する大学においても、履修できる科目や単位認定の可能な科目について独自の設定をする場合がありますので、これらの条件等についても、あらかじめ確認する必要があります。
- 本学においては、管理栄養学科及び看護学科を除く2年生以上が出願可能です（休学中の履修は不可）。
3. 出願手続
- S*mapのジャーナルや、掲示でお知らせします。教務課窓口で確認、手続をしてください。
- 【出願方法】
- 前期開講科目は4月、後期開講科目は4月又は9月に履修登録を行います。
 - 愛知学長懇話会ホームページ（<https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp>）を参照して、所定の「単位互換履修生（特別聴講生）」出願票を、1科目につき1枚記入して、所属する大学の窓口へ申し込みます。
 - 所定の手続を経て提出された出願票が、科目開設大学に受理され、受講者の選考を行います。
4. 履修手続
- 出願票を受理した科目開設大学は、募集定員や出願票に記入された「志望動機」に基づいて受講者の選考を行う場合があります。
- 受講の可否は、4月末ごろに所属大学を通じて通知されます。
- 科目開設大学によっては、独自の手続が必要な場合もありますので、その場合は、それぞれの大学の指示に従ってください。実験・実習費等の納入が必要な場合は、受講が決定してから科目開設大学の指示に従ってください。
5. 仮受講票
- 出願した科目の受講可否が通知される前に、その授業が開始される場合、その期間中は「仮受講」が可能です。仮受講期間中は、出願票のコピーを携帯し、仮の受講票とすることができます。

6. 履修期間中
- 1) 履修手を完了した学生は、科目開設大学における「単位互換履修生」又は「特別聴講生」となり、それぞれの大学において定められた範囲内でのサービス等を受けることができます。
 - 2) 科目開設大学によっては、単位互換履修生(特別聴講生)の身分証明書を発行します。
 - 3) 休講等にかかる連絡は、原則として科目開設大学において掲示等で案内されるほか、学生所属大学への通知によって行われます。
 - 4) 受講科目を履修し、科目に定められた方法による試験等に合格すれば、単位の認定を受けることができます。
7. その他の注意事項
- 1) それぞれの科目に「履修条件」や「募集定員」等があり、出願にあたっては科目ごとの諸条件をよく理解してから申し込んでください。
 - 2) 科目開設大学へのアクセスについても考慮し、所属大学での時間割とあわせて無理のない履修計画をたててください。履修登録したにもかかわらず、通学条件等の理由で途中から受講を放棄しなければならないケースも予想されます。
 - 3) 卒業年次の学生は、自分の卒業所要単位修得状況や見込みにも注意してください。単位互換科目の受講可否や単位修得の可否が卒業に影響する場合は申請できません。
 - 4) 科目開設大学の学年暦にもよく目を通し、履修・試験・単位認定に関わる諸条件(日程を含む。)を十分理解するよう心がけてください。
 - 5) 履修許可された後(授業期間の途中も含む。)の科目の受講の取り止めは原則としてできません。やむを得ず科目の受講を取りやめなければならない状況になった場合、速やかに教務課まで申し出てください。

「研究倫理」：レポート・口頭発表資料・卒業論文・修士論文等の作成に当たっての注意

研究倫理教育の必要性

昨今、研究論文のデータ捏造などの研究活動上の不正行為が大きな社会問題となっています。大学生・大学院生の皆さんは、「コピペ」という言葉を耳にしたことがあると思いますが、これも研究活動上の他人の文章の盗用にあたり、社会問題の一つとして厳しい処分を受けることになります。

私たちの社会は、研究活動を通じて身の回りにある事象を正しく見て、正しく考え、正しく対処することの繰り返しによって成り立ち、今日の科学技術の発展に繋がっています。もし、不正行為がまかり通ってしまえば、間違った情報による結果を利用することになり、私たち自身が大きな被害を受けることにもなります。

こうした社会的信頼を失わないためにも、基本となる研究活動の取り組み方を考える必要があります。

梶山女学園大学では、研究倫理教育という考えのもと、正しい研究活動への取り組みが行われるよう支援を行っています。

<研究活動における不正行為とは何か？>

「研究活動による不正行為」とは、研究成果の内容に、データや調査結果等の捏造（ねつぞう）、改ざん及び盗用を行うことです。以下の不正行為は、授業等で課題として提出するレポートにも該当し、適用されます。

①捏造

存在しないデータ、研究結果等を作成することです。実際に行っていない実験の結果や原資料収集処理の結果等をでっち上げることを言います。

②改ざん

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。研究活動成果のつじつま合わせをすることを言います。

③盗用

他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること。他の研究者の文章や図版を引用する際に、引用元（出典元）を明記せず、自分の考えとして作成（発表）することを言います。「コピペ」もこれに当たります。

④二重投稿

他の学術誌等に既発表（学会の口頭発表は含まれません。）又は投稿中の論文と本質的に同じ論文を投稿すること。

⑤不適切なオーサーシップ

論文著作者が適正に公表されないこと。論文の作成に関わった著作者、共著者、実験やデータの分析に関わった人は、すべて掲載することが求められています。これらの人々が掲載されないことを指しています。

<研究活動の基本事項>

レポート・口頭発表資料・卒業論文・修士論文等の作成に当たり、調査や研究に取り組むこととなりますが、その中に、意図的でないにしろ、不正行為となってしまう例が多々ありますので、以下のことを踏まえて、研究活動を進めていきましょう。

①研究を行うに当たっての責任

研究を行うに当たっては、関係法令や本学の諸規程を遵守するとともに、社会からの信頼と負託の上に成り立っていることを自覚し、良心と信念に従い誠実に行わなければなりません。

②情報・データの収集及び管理

研究に関する情報やデータは、科学的かつ一般的に妥当と考えられる方法、手段により、収集、保管を行わなければなりません。

③インフォームド・コンセント

人の行動、思想信条、環境、心身等に関する個人情報、データ等の提供を受けて研究を行う場合は、提供者（被験者）に対し、事前に研究の目的、収集方法等について分かりやすく説明し、書面等により提供者の同意を得る必要があります。

④個人情報の保護

個人情報の取扱いについては、関係法令や本学の諸規程を遵守し、利用目的の明確化、内容の正確性の確保等の適正な取扱いに努めるとともに、資料、情報、データ等の管理に万全を期し、他に漏らしてはなりません。

⑤研究機器、薬品等の安全管理

研究実験で研究装置・機器、薬品及び材料等を使用する場合は、関係法令や本学の諸規程を遵守し、その安全管理に努めるとともに、責任をもって処理しなければなりません。

⑥研究成果の公表等

研究の遂行及び成果の発表では、他者の知的財産の侵害、捏造、改ざん、盗用、不適切なオーサiership等の不正な行為を行ってはなりません。

⑦差別、ハラスメントの排除

研究活動のすべてにおいては、個人の人格及び自由を尊重し、属性、思想、信条等による差別、ハラスメント行為を行ってはなりません。

以上

第2部

履修ガイド

<教育理念「人間になろう」>

古人の歌に／人となれ人 人となせ人／というのがある。
人間完成、これこそ学園創設の精神であり、
学校教育終局の目標である。諸君よ、人間になろう。

初代学園長・理事長 タカヤマ 梶山正式/1879～1964 (1962年「人間橋由来記」人間橋畔の碑文より)

<「人づくり」への礎石>

「私は道を拓き、敷地を拡げ、校舎を建てることに専念してこと足れるかに見えるならばそれは私の心ではない、それ等はあくまで手段であり、その目的はいうまでもなく育英事業である。そして教育とは知識技能の啓発ばかりでなく、それもやがては人間完成を終局の目標としたものでなければならぬ、そのための環境整備であり、他面また人を導くためには先ずもって自らを磨かなければならぬ。」

初代学園長梶山正式は、学園経営の形の上では、その場づくり、環境の整備も必要であると考えていましたが、それは常に育英事業、つまり「人づくり」を念頭に置いたものでした。また、大学が星が丘キャンパスに移転した際、南北の丘に橋を架け、「多くの学校に銀杏並木や桜のトンネル、橋がある。そこを渡ったり、くぐったりしている間に学生は自然と識らず識らずに人間ができあがるのだと思う」と語り、その橋を「人間橋」と名付け、人づくりへの熱い思いを込めました。

<教育理念「人間になろう」とは>

梶山女学園は、「人間になろう」を教育理念とし、「ひとを大切にできる人間」「ひとと支えあえる人間」「自らががんばれる人間」の3つを「人間になる」ことであると考え、一貫した人間教育を進めてきました。

私たちは教育を通じて、世界中の人々が人間性を回復し豊かさを享受できるよう、人間性を尊重しヒューマニズムの精神を創造できる人間を育成し、また、人と人との「絆」を重視し、互いのつながり、つまり人類の協調・連帯を大事にする人間になることを目指しています。そして、こうした「人間」になるために、自ら考え学ぶことにより、“なろう”とする決意を表明し実践できる自主性・主体性を育てています。

橋のもとに書かれた初代学園長直筆の「人間橋」の文字は、教育理念の原点を示しているとともに、今日の私たちが未来に向かって歩むべき「人づくり」の象徴でもあります。

<大学の教育目的>

本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、本学園の教育理念「人間になろう」にのっとり、深く専門の学術を教授研究し、もって高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人間を育成することを目的とする。

梶山女学園大学学則（第1章 目的）

<学部・学科の目的>

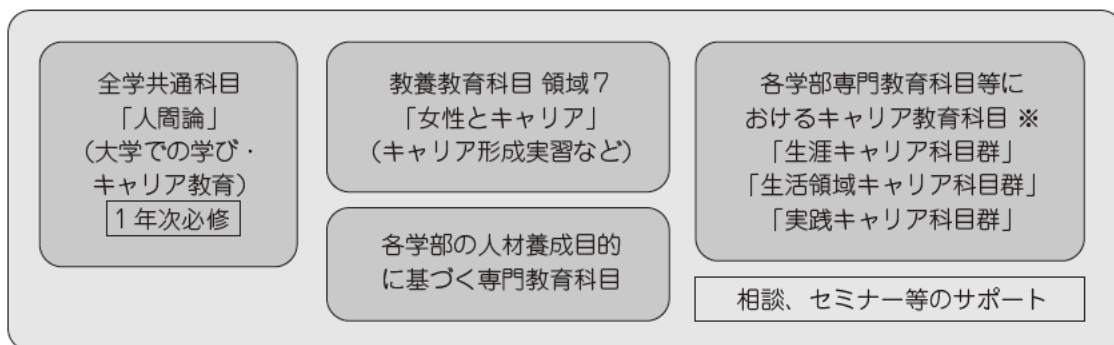
文化情報学部	文化情報学部は、人文・社会科学の領域を中心として、文化及び情報に関する専門の学術を教授研究し、国際化が進む現代の情報社会に積極的に適応する能力とともに問題を解決することができる能力を備えた人材を養成します。
文化情報学科	文化情報学科は、学部の目的に基づき、情報の視点から人間と文化、社会との新しい豊かな関係に関する専門の学術を教授研究し、多様な文化が共生する現代社会において、幅広い知識及び豊かな教養を有し、情報を自在に活用することができる人材を養成します。
メディア情報学科	メディア情報学科は、学部の目的に基づき、メディア及び情報に関する専門の学術を教授研究し、メディアと情報が人間・社会・文化に及ぼす影響を理解できる能力、またメディアを通じて伝達される情報を的確に選択、分析、論評し、活用できる能力を持ち、それを通して現代の情報社会における様々な問題を解決できる人材を養成します。

<トータルライフデザイン教育>

本学では、女性のライフステージを意識し、「トータルライフデザイン」を主導コンセプトとする教育を展開しています。

「トータルライフデザイン教育」とは、女性が社会で自立して生きていくための知識・能力を身に付ける教育です。仕事と生活との最適なバランスを図りながら、それぞれのライフステージ毎の課題を乗り越えていくために、生涯というタイムスパンで自分自身の人生設計を行うことができる力を養います。

キャリア教育を軸としたトータルライフデザイン



※各学部のキャリア教育科目一覧は、毎年S * m a pのキャピネットにおいて公開しています。

梶山女学園大学は、本学の教育理念「人間になろう」の下、専門の学術を教授研究し、高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人材育成を目指します。

こうした人材を育成するため、本学では学部学科ごとにディプロマ・ポリシーを定め、所定の教育課程を修め、以下の知識、能力を持つ人材として認められた学生に対し、学士の学位を授与します。

1. 専門分野における知識と技能を備え、科学的・学問的な視点から事象を捉えることができる。
2. 「人を大切にし、人と支えあい、自らががんばれる」社会人として必要な教養と知性を身に付けている。
3. 大学で学んだ知識や技能に基づき、答えのない課題や目標に対して創造的に考え、多様な人々と取り組むことができる。

学部・学科名	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
文化情報学部	<p>文化情報学部は、人文・社会科学の領域を中心として、文化及び情報に関する専門の学術を修得し、情報化と国際化の時代に対応できる人材を養成することを目的としており、次のような学士力を有する人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化や社会、人間への関心、情報とメディアについての広く学際的な知識 2. 自国の文化を理解するとともに異文化を理解し、的確にコミュニケーションできる力 3. 多様な文化が共生する社会における現代的課題を論じ、適切な判断と対応ができる力 4. 情報化と国際化が進む中で、それを踏まえて自らの課題解決に積極的に取り組むことができる力 5. 高度情報化社会の進展に貢献できる人材に必要な情報を、的確に分析・活用し、発信することができる力 6. 21世紀を生きる人間としてふさわしい豊かな人間性
文化情報学科	<p>文化情報学科は、文化及び情報に関する専門の学術を修得し、情報を的確に分析・活用し、発信することができる能力と、異文化を理解し、多様な文化が共生する社会の中での的確にコミュニケーションできる能力を兼ね備え、積極的かつ主体的に自己表現できる人材を養成することを目的としており、次のような学士力を有する人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 有形・無形の文化や文化財など、文化の具体的な諸相やアーカイブについて理解し、文化を使いこなす力 2. 日本やアジアの社会及び地域文化を理解し、多文化共生社会において必要な教養と知識 3. 社会や人のネットワークの理解を軸に、企業・行政・地域コミュニティでの仕事や生活について理解し、社会に貢献できる見識と知識 4. 情報通信ネットワークの基礎となる手段や仕組みを理解し、人や社会との豊かな関係を構築する情報デザイン力とそれを活用する力

メディア情報 学科	<p>メディア情報学科は、メディア及び情報に関する専門の学術を修得し、メディアと情報が人間・社会・文化に及ぼす影響を理解できる能力、またメディアを通じて伝達される情報を的確に選択、分析、論評し、活用できる能力を持ち、それを通して現代の情報社会における様々な問題を解決できる人材の養成を目的としており、次のような学士力を有する人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. メディアの発達が社会に与える影響や現代の情報社会を的確に考察できる力と人間の社会行動を科学的に分析する力2. メディアを通じて伝えられる情報の価値を正しく評価できる力と人間のコミュニケーション行動を科学的に分析する力3. メディアと文化の関係性、その歴史的展開や現代社会における位置づけを批判的に考察できる力4. 現代のメディアを駆使して新しいコミュニケーションのあり方をデザインし評価できる力
--------------	---

椋山女学園大学の学士課程では、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程を編成し、実施します。

1. 本学の授業科目は、全学共通科目、教養教育科目、学部共通科目、専門教育科目、各種課程及び資格取得に関する科目等で編成します。
2. 全学共通科目及び教養教育科目は、総合大学としての強みを活かし、学部学科を超え、多様な学生が相互に学び合います。
3. 初年次教育として、「人間論」を通じて本学の教育理念「人間になろう」を学び、自主性・主体性の基礎を育みます。また、「ファーストイヤーゼミ」では大学での学修を進める上での基礎的スキルを学びます。
4. 教養教育科目は、7つの領域で構成し、生涯にわたっての知的基盤となる幅広いものの見方や考え方を身に付けます。
5. 専門教育は学部ごとに行い、専門分野における知識と技能を習得するために基礎から応用、発展へと段階的に高い専門性を身に付けることができる配置とします。そして、その集大成として卒業研究、卒業論文等をまとめます。
6. 1年次からキャリア教育科目を開講し、4年間を通じてキャリア教育を実施します。
7. 主体的な学修を進めるために、授業科目ごとに身に付く能力を明確にし、学修の段階や順序、レベルを確認できる体系的な科目配置を行います。

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
文化情報学部	<p>文化情報学部は、本学の教育理念「人間になろう」及び「椋山女学園大学の目的」「文化情報学部の目的」を実現するために、「学位授与の方針」に基づいて組織的、体系的にカリキュラムを編成します。全学共通科目、教養教育科目、専門教育科目を配置し、教養教育科目と専門教育科目の連携及び適切なバランスに配慮します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養教育科目は全学と共通の枠組みのもと、人文、社会、自然、言語や情報、健康・スポーツに関する科目をバランスよく配置し、幅の広い教養を身に付けさせます。 2. 専門教育科目は「基礎教育科目」、「基幹科目」、「展開科目」、「関連科目」、「卒業研究」に分け、専門教育の基礎的な内容から、より発展した内容までバランスよく配置します。専門教育では、「文化情報学科」及び「メディア情報学科」の2学科に沿って系統的に修得できる科目を配置します。 3. 「基礎教育科目」には、社会人として必要な技能と日本語能力の修得を目指す「日本語・ソシオスキルズ」科目群、情報活用能力を育成する「情報リテラシー」に関する科目群、国際化の時代に役立つ「外国語」に関する科目群を配し、情報化と国際化の時代に対応できる基礎的能力の育成を図ります。 4. 「基幹科目」は、両学科の基幹をなすものであり、学科に分けて科目を配置し、両学科の基幹となる知識の修得を目指します。 5. 「展開科目」には、両学科に関する内容をより発展させた科目を配置し、より広く、深い専門的知識の修得を目指します。 6. 「関連科目」には、他学科の専門科目であるが、それぞれの学科がより深い知識と教養を身に付けるために必要な科目を配置し、より幅広い専門と教養の修得を目指します。

文化情報学科	<p>文化情報学科は、文化情報学科の目的・学位授与の方針を実現するために、次のような方針のもとにカリキュラムの編成を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代に求められる情報力の養成と幅広い教養を育成するためのカリキュラム編成を行います。 2. 文化情報学科の理念を実現するために、「文化・アーカイブス」、「アジア・地域・ツーリズム」、「社会ネットワーク」及び「情報・コンピューティング」の4つの学びの領域を設け、文化から情報まで幅広く総合的に学べるカリキュラムとします。 3. 学生一人ひとりの学びをサポートするカリキュラム編成と多様な演習科目を配置します。 4. 卒業後の進路を見据えた職業的・社会的自立のためのキャリア教育を実践します。
メディア情報学科	<p>メディア情報学科は、メディア情報学科の目的・学位授与の方針を実現するために、次のような方針のもとにカリキュラムの編成を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メディアと情報について、大きく“社会とメディア”、“文化とメディア”という2つの領域からアプローチしていきます。 2. “社会とメディア”には「メディア社会」と「メディアコミュニケーション」、「文化とメディア」には「メディア文化」と「メディアデザイン」として2つずつ、計4つの小領域を設け、広く社会や文化状況と関わる教養と批評力、メディアリテラシー、情報分析力、情報発信に必要とされる情報デザインの知識と制作力を身につけることを目標に設定します。 3. 各領域とも、基礎となる学術分野の理論とともに、その方法論や情報表現の制作手法に関しても一体的に学修できる科目構成となっています。 4. 学生各自の興味・関心、卒業後の進路に応じて、柔軟に単位を取得できるしくみを採用しています。

<「育成する4つの能力」とは>

梶山女学園大学では、各学部・学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）において、当該学士課程教育において培う学士力を定めています。そして、それらの学士力を各学部・学科ごとに下記のように「知識・理解」「思考・判断」「態度・志向性」及び「技能・表現」の4つの面からとらえ、具体的に育成する能力としています。また、各学科で開講される授業科目ごとに、それぞれの授業がどのような能力を主として育成するかを◎又は○（特に重点的に育成する能力は「◎」、重点的に育成する能力は「○」）で示しています。

文化情報学科

ディプロマ・ポリシーと「育成する4つの能力」の関係			ディプロマ・ポリシー(DP)			
			DP1	DP2	DP3	DP4
育成する4つの能力	知識・理解	文化・情報および通信技術に関する専門的な知識を修得し、多様な文化が共生する現代社会における文化・情報および情報技術の意義や役割を理解している。	○	○		
	思考・判断	文化および情報に関する問題を多角的・実践的に思考し、科学的な見方や考え方を生かすとともに、解決すべき問題の本質を見極め、適切に判断し考察することができる。			○	○
	態度・志向性	文化・社会・人間と情報との関係や相互の影響に関心をもち、多様な文化が共生する情報社会に積極的に参画しようとする態度と、主体的に解決すべき課題を見つけ取り組む志向性を有している。			○	
	技能・表現	文化におけるグローバルとローカル、伝統と現代、未来を見据え、受け継ぎ、情報社会への文化の発信者として、情報デザイン力と豊かな表現力を身につけ、効果的にコミュニケーションをとることができる。				○

メディア情報学科

ディプロマ・ポリシーと「育成する4つの能力」の関係			ディプロマ・ポリシー(DP)			
			DP1	DP2	DP3	DP4
育成する4つの能力	知識・理解	メディアを通じて伝達される情報について適切に判断する能力を持ち、メディア環境の変化が人間の意識・行動、社会に与える影響について論評できる思考力を有している。	○			
	思考・判断	メディアと情報について理解し、メディアの発達が社会に与える影響、および、情報と人間の意識・行動との関係について、専門的知識を修得している。		○		
	態度・志向性	メディアを通じて伝達される情報について関心をもち、その文化的、社会的背景や、問題点・課題などを批判的、批評的態度で考察しようとする意欲を身につけている。			○	
	技能・表現	さまざまなメディアツールを通じた情報発信を実践的に行うことのできる技能、および、効果的に情報を伝達するためのコミュニケーションスキルや表現力を修得している。また、情報データを科学的な方法論で収集、分析、加工できる技能を修得している。				○

※ DP1～DP4は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」ページに記載している各学科のディプロマ・ポリシー1～4に対応しています。

<「カリキュラム・マップ」とは>

椋山女学園大学では、「教育目的」、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」と「育成する4つの能力（知識・理解）（思考・判断）（態度・志向性）（技能・表現）」が個々の授業科目において、どのように対応しているかを示したものをカリキュラム・マップとといいます。

<科目ナンバリングとは>

1. 科目ナンバリング

椋山女学園大学では、履修計画を立てる際の指針となるように、全ての科目に固有のナンバーを設定しています。この科目ナンバリングでは、学修の段階や順序、受講科目の分野やレベルを確認し体系的な履修が可能となるよう設定してありますので、履修計画を立てる際の指針として役立ててください。

2. 科目ナンバリングのルール

① 開講学部 学科	② カリキュ ラム上の 分類に基 づく番号	③ レベル		④ カリキュ ラム上の 分野	⑤ 学部学 科独自 の領域	⑥ 識別番号	⑦ 領域内 履修順序	⑦ 補助		⑧ 科目属性
L N	1	1	-	AA	—	01	0	a	-	Y

① 開講されている学部学科を表しています。

L N	管理栄養学科	C I	文化情報学科
L E	生活環境デザイン学科	C M	メディア情報学科
L K	生活科学部共通	C K	文化情報学部共通
C F	国際言語コミュニケーション学科	MM	現代マネジメント学科
C C	表現文化学科	E N	子ども発達学科 保育・初等教育専修
C S	国際コミュニケーション学部共通	E E	子ども発達学科 初等中等教育専修
H R	人間関係学科	E K	教育学部共通
H P	心理学科	N U	看護学科
H K	人間関係学部共通	Z K	全学共通科目

② カリキュラム上の分類を表しています。

0	教養教育科目	4	学科の学びを応用・発展させる科目、 視野を広げる科目
1	学部の学びの基礎となる科目（学部共通）	5	大学院科目
2	学科の学びの基礎となる科目	9	資格専門科目
3	学科の学びの基幹となる科目		

③ 科目のレベルを表しています。

1	導入レベル科目（基礎となる科目）	4	上級レベル科目 （専門領域の上級レベル科目）
2	初級レベル科目（基礎から専門的レベルへの橋渡しとなる科目）	5	大学院修士レベル科目
3	中級レベル科目（専門領域の中核となる科目）	6	大学院博士レベル科目

④ 各学科のカリキュラムでどの分野に位置づけられている科目かを表しています。（別表1）

⑤ 学部学科で、カリキュラム表には明示されていない領域がある場合に示しています。

⑥ ④⑤の分野・領域の中で科目の識別をするための番号です。関連性のある同種の科目については同じ番号が設定されています。

⑦ 関連性のある同種の科目については、履修の順序を表しています。0（ゼロ）は履修順序はありません。

⑧ 科目の特徴や資格との関係を表しています。

K	他学部他学科開放科目	G	学芸員に関する科目
E	英語のみで実施する科目	N	日本語教員に関する科目
S	【教職課程】 教育の基礎的理解に関する科目等、 各教科の指導法	H	保健師に関する科目
Y	【教職課程】 教科に関する専門的事項、栄養に係る 教育に関する科目、養護に関する科目		
T	司書・司書教諭に関する科目		

3. 科目ナンバリング掲載箇所

教養教育科目：P 1－17 から P 1－19 の「教養教育科目の履修」のページに記載されています。

専門教育科目：P 2－8 から P 2－18 の「育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング」
についてのページに記載されています。

S*map「キャビネット」の教務課フォルダにも科目ナンバリング表があります。ご確認ください。

【別表1】

カリキュラム上の分野

文化情報学科	基礎教育科目	学部共通	AA
		日本語・ソシオスキルズ	JS
		情報リテラシー	IL
		外国語	FO
		演習	SE
	基幹科目	文化・アーカイブス	CA
		アジア・地域・ツーリズム	AT
		社会・ネットワーク	SN
		情報・コンピューティング	IC
		演習	SE
	展開科目	文化・アーカイブス	CA
		アジア・地域・ツーリズム	AT
		社会・ネットワーク	SN
		情報・コンピューティング	IC
		演習	SE
	関連科目		RE
	卒業研究		GS
メディア情報学科	基礎教育科目	学部共通	AA
		日本語・ソシオスキルズ	JS
		情報リテラシー	IL
		外国語	FO
		演習	SE
	基幹科目	メディア社会	MS
		メディアコミュニケーション	MC
		メディア文化	MB
		メディアデザイン	MD
		演習	SE
	展開科目	メディア社会	MS
		メディアコミュニケーション	MC
		メディア文化	MB
		メディアデザイン	MD
		演習	SE
	関連科目		RE
	卒業研究		GS

教養教育科目	教養教育科目	領域1 思想と表現	TE
		領域2 歴史と社会	HS
		領域3 自然と科学技術	NS
		領域4 数理と情報	MI
		領域5 言語とコミュニケーション	LC
		領域6 健康とスポーツ	SP
		領域7 女性とキャリア	WC
資格専門科目	資格専門科目	教職課程	TE
		学芸員資格取得に関する科目	CU
		司書・司書教諭資格取得に関する科目	LI
		社会福祉士	SW
		日本語教員	JT
		その他の資格	OT

文化情報学科 カリキュラム・マップ

*特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現	
基礎教育科目	共通 文化情報論	CK11-AA-010-YN	1	◎	○			
	日本語・ ソシオ スキルズ	レポート・論文技法	CK11-JS-010-N	1		○		◎
		日本語表現法	CK11-JS-020	1		○		◎
		日本語論	CK12-JS-030-N	2	◎	○		
		言語学概論	CK12-JS-040-N	2	◎	○		
		プレゼンテーション技法	CK12-JS-030-Y	2		○		◎
		ワークショップ技法	CK12-JS-040	2		○		◎
		ソーシャル・スキル・トレーニング	CK13-JS-050	3		○		◎
	キャリアデザイン	CK13-JS-060	3	○	◎			
	情報リテラシー	メディア・リテラシー	CK11-IL-010-YT	1	◎	○		
		インターネット基礎	CK11-IL-020-Y	1	◎			○
		情報セキュリティと倫理	CK12-IL-030-Y	2	◎	○		○
		デジタルメディア基礎	CK11-IL-040-Y	1	○			◎
		情報科学基礎	CK11-IL-050-Y	1	◎			○
		情報処理論	CK11-IL-060-Y	1	◎			○
		ホームステイ・イングリッシュ	CK12-FO-020	2	○			◎
	外国語	中国語基礎文法	CK11-FO-030a	1	○			◎
		中国語基礎会話	CK11-FO-030b	1	○			◎
		実践中国語A	CK12-FO-040a	2	○			◎
		実践中国語B	CK12-FO-040b	2	○			◎
		海外言語文化演習A	CK11-FO-050a-K	1	○			◎
		海外言語文化演習B	CK11-FO-050b-K	1	○			◎
		海外言語文化演習C	CK11-FO-050c-K	1	○			◎
		海外言語文化事情A	CK11-FO-060a-K	1		◎	○	
		海外言語文化事情B	CK11-FO-060b-K	1		◎	○	
	海外言語文化事情C	CK11-FO-060c-K	1		◎	○		
	演習	基礎演習	CK11-SE-010	1		◎		○
基礎科目	文化・ アー カイブス	日本の伝統と文化	CI32-CA-010-N	2	◎		○	
		東海・名古屋研究	CI32-CA-020	2	◎		○	
		物質文化論	CI32-CA-030-K	2	○	◎		
		音楽と芸能	CI32-CA-040	2	◎		○	
		日常動作法	CI32-CA-050	2	○			◎
		図書館概論	CI31-CA-060-T	1	◎	○		
		図書・図書館史特論	CI32-CA-070-T	2	◎	○		
		博物館概論	CI31-CA-080-G	1	○	◎		
		デジタルアーカイブ論	CI32-CA-090-T	2			○	◎
	アジア 地域 シリーズ	アジア文化交流論	CI31-AT-011-N	1		○	◎	
		アジアの都市	CI32-AT-021	2	○		◎	
		現代中国の社会と文化	CI32-AT-030	2	○	◎		
		韓国文化論	CI33-AT-040	3		◎	○	
	アジアのことば	CI32-AT-050-N	2	○		◎		

履修ガイド

育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
基幹科目	アジア地域シリーズ	文化と地域	CI31-AT-060	1	○	◎	
	地域デザイン論	CI32-AT-070	2		◎	○	
	観光学	CI31-AT-080	1	◎	○		
	観光とホスピタリティ	CI32-AT-091	2	○	◎		
	社会・ネットワーク	社会組織論	CI31-SN-010	1	◎	○	
	女性とライフコース	CI31-SN-020	1		○	◎	
	都市計画論	CI32-SN-030	2	○	◎		
	ビジネスと情報	CI32-SN-040-Y	2	○		◎	
	情報産業	CI31-SN-050-Y	1	◎	○		
	リスクマネジメント	CI32-SN-060	2			◎	○
	マーケティング論	CI32-SN-070	2	◎			○
	地域創造学	CI32-SN-080	2	○	◎		
	まちづくり学	CI32-SN-090	2			○	◎
	社会調査入門	CI32-SN-100	2		○		◎
	情報・コンピュータデザイン	情報社会と情報技術	CI32-IC-010-Y	2	◎	○	
	情報処理概論	CI31-IC-020	1	○	◎		
	情報処理演習	CI32-IC-030-Y	2	○		◎	
	情報通信論	CI32-IC-040-Y	2	◎		○	
	データベースシステム	CI32-IC-050-Y	2	◎			○
	情報デザイン論	CI32-IC-060	2	◎			○
webデザイン	CI32-IC-070-Y	2	○			◎	
グラフィックデザイン	CI32-IC-080	2			○	◎	
サウンドデザイン	CI32-IC-090	2	○			◎	
人工知能	CI32-IC-100-Y	2	○	◎			
プログラミング1	CI32-IC-110a-Y	2	○			◎	
プログラミング2	CI32-IC-110b-Y	2	○			◎	
演習	基幹演習	CI32-SE-020	2		◎	○	
展開科目	文化・アーカイブス	日本文化論	CI42-CA-012-N	2	◎	○	
	比較文化論	CI42-CA-020-N	2		◎	○	
	文化遺産論	CI43-CA-030-K	3	◎	○		
	パフォーミング・アート	CI43-CA-040	3		○		◎
	日本事情英語	CI42-CA-050	2			○	◎
	図書館サービス概論	CI42-CA-060-T	2	◎	○		
	情報サービス論	CI42-CA-070-T	2	◎	○		
	博物館経営論	CI42-CA-080-G	2	◎	○		
	博物館情報・メディア論	CI42-CA-090-G	2	○			◎
	実務応用演習A	CI43-CA-100	3			◎	○
	アジア・地域・シリーズ	アジア地域論	CI42-AT-010	2	◎	○	
	東アジア地誌論	CI43-AT-020	3	◎		○	
	東アジアの社会と経済	CI43-AT-030	3		○	◎	
	グローバル社会論	CI43-AT-040	3			◎	○
国際関係論	CI43-AT-050	3		○	◎		
アジア文化史	CI43-AT-060	3	○	◎			
観光デザイン論	CI43-AT-070	3		○	◎		

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
アジア 地域 システム	観光産業論	CI43-AT-082	3		◎	○	
	観光英語	CI43-AT-090	3			○	◎
	フィールドワーク技法	CI43-AT-100	3			○	◎
	実務応用演習B	CI43-AT-110	3			◎	○
社会・ ネット ワーク	多文化共生社会	CI42-SN-010	2		○	◎	
	グローバルビジネス	CI42-SN-020	2	◎	○		
	ビジネス英語	CI43-SN-030	3	○			◎
	情報ネットワーク社会論	CI43-SN-040-Y	3	◎	○		
	経営情報システム	CI43-SN-050-KY	3		○		◎
	現代産業事情	CI43-SN-060-Y	3	◎		○	
	職業と雇用	CI43-SN-070	3	○		◎	
	コミュニティデザイン論	CI43-SN-080	3			◎	○
	実務応用演習C	CI43-SN-090	3			◎	○
	情報システム論	CI43-IC-010-Y	3		○	◎	
情報・ コン ピュ ー テ ィ ン グ	ハードウェア論	CI43-IC-020-Y	3	◎			○
	ソフトウェア論	CI43-IC-030-Y	3	◎			○
	通信ネットワーク論	CI42-IC-040-Y	2	○	◎		
	インターネット論	CI43-IC-050-Y	3		○	◎	
	画像情報論	CI43-IC-060-Y	3	◎	○		
	知能情報システム	CI43-IC-070-Y	3	○			◎
	データベース演習	CI43-IC-080-Y	3	○		◎	
	プログラミング応用	CI43-IC-090-Y	3	○			◎
	シミュレーション	CI43-IC-100-Y	3	○	◎		
	三次元グラフィックス	CI43-IC-110-Y	3		○		◎
	映像・アニメーション制作	CI42-IC-120-Y	2	○			◎
	実務応用演習D	CI43-IC-130	3			◎	○
	演 習	展開演習1	CI42-SE-031	2		◎	
展開演習2		CI43-SE-032	3			◎	○
関 連 科 目	教育社会学	CI43-RE-020	3	◎	○		
	社会教育演習	CI43-RE-030	3			◎	○
	生涯学習概論	CI42-RE-040-GT	2	○	◎		
	生涯学習各論	CI43-RE-050-GT	3		◎	○	
	博物館展示論	CI42-RE-060-G	2	○			◎
	文化人類学	CI42-RE-070	2	○	◎		
	余暇学	CI43-RE-080-K	3	○	◎		
	少子高齢化社会	CI43-RE-090	3		◎	○	
	情報と法	CI43-RE-100-Y	3	○			◎
	スキルアップ英語	CI43-RE-110	3	○			◎
	仕事学概論	CI42-RE-120-K	2			○	◎
ビジネス文書と文書管理	CI42-RE-130-K	2	○			◎	
卒 業 研 究	卒業研究指導1	CI43-GS-011	3			◎	○
	卒業研究指導2	CI44-GS-012	4			◎	○
	卒業研究	CI44-GS-013	4			◎	○

メディア情報学科 カリキュラム・マップ *特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

授業科目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現		
基礎教育科目	共通 文化情報論	CK11-AA-010-YN	1	◎	○				
	日本語・ ソシオ スキルズ	レポート・論文技法	CK11-JS-010-N	1		○		◎	
		日本語表現法	CK11-JS-020-N	1		○		◎	
		日本語論	CK12-JS-030-N	2	◎	○			
		言語学概論	CK12-JS-040-N	2	◎	○			
		プレゼンテーション技法	CK12-JS-050-Y	2		○		◎	
		ワークショップ技法	CK12-JS-060	2		○		◎	
		ソーシャル・スキル・トレーニング	CK13-JS-070	3		○		◎	
	キャリアデザイン	CK13-JS-080	3	○	◎				
	情報リテラシー	メディア・リテラシー	CK11-IL-010-Y	1	◎	○			
		インターネット基礎	CK11-IL-020-Y	1	◎			○	
		情報セキュリティと倫理	CK12-IL-030-Y	2	◎	○		○	
		デジタルメディア基礎	CK11-IL-040-Y	1	○			◎	
		情報科学基礎	CK11-IL-050-Y	1	◎			○	
		情報処理論	CK11-IL-060-Y	1	◎			○	
		ホームステイ・イングリッシュ	CK12-FO-010	2	○			◎	
		外国語	中国語基礎文法	CK11-FO-020a	1	○			◎
			中国語基礎会話	CK11-FO-020b	1	○			◎
			実践中国語A	CK12-FO-030a	2	○			◎
	実践中国語B		CK12-FO-030b	2	○			◎	
	海外言語文化演習A		CK11-FO-040a-K	1	○			◎	
	海外言語文化演習B		CK11-FO-040b-K	1	○			◎	
	海外言語文化演習C		CK11-FO-040c-K	1	○			◎	
	海外言語文化事情A		CK11-FO-050a-K	1		◎	○		
	海外言語文化事情B		CK11-FO-050b-K	1		◎	○		
	海外言語文化事情C	CK11-FO-050c-K	1		◎	○			
	演習	基礎演習	CK11-SE-010	1		◎		○	
基礎科目	メディア社会	メディア社会論	CM11-MS-010	1	◎	○			
		社会情報学	CM31-MS-020	1	◎	○			
		地域情報論	CM32-MS-030	2	◎	○			
		社会心理学	CM32-MS-040	2	◎	○	○		
		メディアと若者	CM32-MS-050	2	◎	○			
		ソーシャル・メディアと社会	CM32-MS-060	2	◎	○			
		メディアと世論	CM32-MS-070	2	◎		○		
		社会リサーチ基礎	CM31-MS-080	1	◎		○		
		社会調査入門	CM32-MS-090	2		○		◎	
	情報検索技法	CM32-MS-100-Y	2				◎		
	メディアコミュニケーション	メディア心理学	CM31-MC-010-N	1	◎	○	○		
		ジャーナリズム論	CM31-MC-020	1	○		◎		
		マスメディア論	CM32-MC-030	2	◎	○	○		
放送社会論		CM31-MC-040	1	◎		○			

履修ガイド

育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング

授業科目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現	
基幹科目	メディアコミュニケーション	メディア倫理	CM32-MC-050	2	○	○	◎	
		認知心理学	CM32-MC-060-N	2	◎	○	○	
		データ解析入門	CM31-MC-070	1	◎		○	
		データ収集法	CM32-MC-080	2	○		◎	
		データ解析論	CM32-MC-090	2	◎		○	
		取材活動論	CM32-MC-100	2	○	◎		
	メディア文化	メディア文化論	CM31-MB-010	1	◎		○	
		映像制作概論	CM31-MB-020	1	○	◎		
		出版文化論	CM32-MB-030	2	◎		○	
		広告論	CM32-MB-040	2	◎	○		
		メディアと言語	CM32-MB-050-N	2	◎	○	○	
		メディア戦略論	CM32-MB-060	2	◎	○		
		メディアコンテンツ論	CM32-MB-070	2	◎	○	○	
		メディア文化分析入門	CM31-MB-080	1	◎		○	
	メディアデザイン	スタジオ制作	CM32-MB-090	2			◎	
		スピーチ・コミュニケーション	CM32-MB-100	2		◎	○	
		メディアデザイン論	CM31-MD-110	1	◎	○		
		映像・音響情報論	CM31-MD-010	1	○		◎	
		デジタルメディア論	CM32-MD-020	2	◎		○	
		webデザイン	CM32-MD-030-Y	2	○		◎	
		グラフィックデザイン	CM32-MD-040	2			○	
		◎					◎	
		社会学習論	CM32-MD-050-Y	2	◎	○		
		情報デザイン入門	CM31-MD-060	1	◎		○	
	演習	インターネット技法	CM32-MD-070-Y	2	○		◎	
		画像編集技法	CM32-MD-080-Y	2	○		◎	
		映像撮影技法	CM32-MD-090	2	○		◎	
	展開科目	基幹演習	CM32-SE-020	2		◎	○	
		メディア社会	ビジネスと情報	CM42-MS-010-Y	2	○		◎
			都市とメディア	CM42-MS-020	2	◎		○
情報ネットワーク社会論			CM43-MS-030-Y	3	◎	○		
メディア社会史			CM43-MS-040-Y	3	◎		○	
メディアと産業			CM43-MS-050	3	◎		○	
メディアと公共			CM43-MS-060	3	◎		○	
マーケティング論			CM42-MS-070	2	◎		○	
社会調査技法			CM43-MS-080	3	○		◎	
フィールドワーク技法			CM43-MS-090	3			○	
◎							◎	
メディアコミュニケーション		応用フィールドワーク	CM43-MS-100	3		○	◎	
		適応行動論	CM42-MC-010	2	◎	○	○	
	英語圏メディア事情	CM43-MC-020	3	◎		○		
	映像ジャーナリズム論	CM43-MC-030	3	○	◎			
	現代社会とジャーナリズム	CM43-MC-040	3	◎		○		
芸能・スポーツジャーナリズム	CM43-MC-050	3	◎		○			
メディア応用心理学	CM43-MC-060	3	○	◎	○			

授業科目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現	
展開科目	コミュニケーション	臨床メディア論	CM43-MC-070	3	○	◎	○	
		データ解析技法	CM43-MC-080	3		○	◎	
		コミュニケーション・ライティング	CM43-MC-090	3		◎	○	
		メディア英語	CM43-MC-100	3			○	◎
	メディア文化	ファッション文化論	CM42-MB-010	2	◎		○	
		映像・映画学	CM42-MB-020	2	○		◎	
		ファッション心理学	CM43-MB-030	3	◎	○	○	
		広報・宣伝論	CM43-MB-040	3	◎	○		
		ポピュラーカルチャー論	CM43-MB-050	3		◎	○	
		メディア文化研究	CM43-MB-060-N	3		◎	○	
		メディアと書	CM43-MB-070	3	◎			○
		映像制作演習	CM43-MB-080	3	○			◎
		広告制作	CM43-MB-090	3	◎			○
	メディア情報分析	CM43-MB-100	3		○	○	◎	
	メディアデザイン	学習環境デザイン論	CM42-MD-010	2	○		◎	
		色彩コミュニケーション	CM42-MD-020	2	◎	○		○
		イベントプロデュース	CM43-MD-030	3	○	◎		
		編集デザイン	CM43-MD-040-Y	3	○			◎
		ソフトウェア論	CM43-MD-050-Y	3	◎			○
		メディアデザイン研究	CM43-MD-060	3	○		◎	
		動画制作	CM43-MD-070-Y	3	○			◎
		webプログラミング	CM43-MD-080-Y	3	○			◎
		デジタルサウンド演習	CM43-MD-090	3	○			◎
	演習	展開演習1	CM42-SE-031	2		◎		○
		展開演習2	CM43-SE-032	3			◎	○
	関連科目	情報処理演習	CM42-RE-010-Y	2	○		◎	
通信ネットワーク論		CM42-RE-020-Y	2	○	◎			
情報サービス論		CM42-RE-030-T	2	◎	○			
プログラミング1		CM42-RE-040a-Y	2	○			◎	
プログラミング2		CM42-RE-040b-Y	2	○			◎	
情報通信論		CM42-RE-050-Y	2	◎		○		
インターネット論		CM43-RE-060-Y	3		○	◎		
情報システム論		CM43-RE-070-Y	3		○	◎		
三次元グラフィックス		CM43-RE-080-Y	3		○		◎	
教育社会学		CM43-RE-090	3	◎	○			
サウンドデザイン		CM42-RE-100	2	○			◎	
情報と法		CM43-RE-110-Y	3	○			◎	
卒業研究	ハードウェア論	CM43-RE-120-Y	3	◎			○	
	卒業研究指導1	CM43-GS-011	3			◎	○	
	卒業研究指導2	CM44-GS-012	4			◎	○	
	卒業研究	CM44-GS-013	4			◎	○	

1. 文化情報学部とは

21世紀は、高度に情報化、国際化された社会を背景に、世界の多様な文化が共存しつつ互いに緊密なコミュニケーションを図りながら、より高度な文化的価値を創造していく時代です。そのような時代には、外国語に習熟し、自国の文化はもちろん、他国の多様な文化に対する深い理解と、それらを受容する柔軟な感性が必要とされます。同時に、情報の活用能力を持ち、課題を自ら発見し、解決しうる能力を備え、自己を積極的に表現できる人材が求められています。文化情報学部は、このような時代認識にもとづき、バランスのとれた社会と文化の形成に役立つ人材を育成するための新しい文科系学部です。

2. めざす人材像

文化情報学部では、文化や情報に関する専門の学術を修得し、情報化と国際化の時代に対応できる人材の育成をめざしています。そのために、以下のような能力、知識・教養を修得し、21世紀を生きる人間としてふさわしい「豊かな人間性」の形成をめざします。

- ①言語や文化、コミュニケーションや行動、社会組織や情報についての幅広く学際的な知識
- ②自国の文化を理解するとともに異文化を理解し、的確にコミュニケーションできる能力
- ③多様な文化が共生する社会の中で現代的課題を論じ、的確に対応・判断できる能力
- ④情報化と国際化の進む中で、自らの課題解決に積極的に取り組むことのできる能力
- ⑤高度情報化社会の進展に貢献できる人材として必要な情報の分析・活用・発信能力
- ⑥社会人としての基礎的能力、コミュニケーション能力、対人関係に関する能力と教養

3. 学びの特色

文化情報学部の学びは、文化情報学科、メディア情報学科両学科でそれぞれの学びの特色を持っています。ここでは、両学科に共通の学びについて触れます。

1) 社会で求められる実践力の育成

文化情報学部の学びの特色の1つとして、社会で求められる実践力を身につけることができる基礎教育科目を設けています。基礎教育科目には、「日本語・ソシオスキルズ」「情報リテラシー」「外国語」をおき、レポートや論文の書き方やプレゼンテーションを行うために必要な技能の修得や、コンピュータ、インターネットを活用していくための基礎的な能力や倫理の修得を行います。

2) グローバル時代に対応する外国語教育

グローバル化の進む現代社会では、基礎的な外国語能力は不可欠なものとなっています。文化情報学部は、アジアを中心とした異文化理解のために必要な「英語」「中国語」に加え、新たに「韓国語」を設けました。世界共通語の「英語」は、ネイティブ講師による英会話授業を少人数で毎日行います。その他、夏休みなどを利用した『海外言語文化演習』により「英語」「中国語」「韓国語」の修得や文化交流・理解を深く進めることができます。

3) 複数の資格が取得可能

本学部で取得できる資格は、1) 高校生に「情報」の科目を教えるための教職、2) 図書館で働く専門職の司書、3) 学校図書館で働く司書教諭、4) 外国人に日本語を教えるための日本語教員、5) 博物館・美術館などで働く学芸員、6) 公民館などで働く社会教育主事（公務員試験に合格する必要あり）、7) 社会調査士などがあります。その他、情報関連資格を取得するためのサポート科目なども多数配置しています。このように、やる気のある学生はどんどんと伸びる環境を整えています。

<文化情報学科>

1. 文化情報学科をめざす人材像

文化情報学科では、情報の視点から人間と文化、社会との新しい豊かな関係を学び、国際化により、多様な文化の共生する現代に求められる知識と教養を持った人材の育成をめざしています。そのために、以下のような能力や知識、教養の修得をめざします。

- ①有形・無形の文化や文化財など、文化の具体的諸相やアーカイブについて理解し「文化を使いこなす」能力
- ②日本やアジアの社会・地域文化を理解し、多文化共生社会に必要な教養と知識
- ③社会や人のネットワークを理解し、企業・行政・地域コミュニティでの仕事や生活を理解し、社会に貢献できる見識と知識
- ④情報通信ネットワークの仕組みや手段を理解し、人と社会との豊かな関係を構築する情報デザイン力を持ち、活用する力

2. 文化情報学科の学びの特色

1) 4つの学びの領域から文化・情報を学ぶ

文化情報学科には、「文化・アーカイブス」「アジア・地域・ツーリズム」「社会・ネットワーク」「情報・コンピューティング」の4つの学びの領域をもうけ、文化・情報を総合的に学びます。

「文化・アーカイブス」の領域では、日本の伝統文化や物質文化、知の集積の場である図書館・博物館などについて学び、文化やその情報蓄積・活用がどのようになされているのかを具体的に学んでいきます。

「アジア・地域・ツーリズム」の領域では、日本やアジアの地域社会への理解や多文化共生社会に必要な教養を身につけ、21世紀の成長領域として注目されている「観光・旅行」についても学んでいきます。

「社会・ネットワーク」の領域では、女性と社会・組織などの関連を軸に、皆さんの将来に深い関わりを持つ家族、企業、行政、地域コミュニティなど、多様な組織の現在について、学んでいきます。

「情報・コンピューティング」の領域では、コンピュータの仕組みや理論を学び、現代社会で求められる情報力、情報デザイン力の育成をめざします。

2) 幅の広い学びができる文化情報学科

文化情報学科の学びの特色の1つは、文化、アジア、地域、観光、社会、情報という多様な分野を総合的に学び、現代に求められる情報力と幅の広い知識と教養の育成をめざしたカリキュラム編成になっているという点です。さまざまな領域を幅広く学ぶこともできますし、自分の興味・関心に基づいて、特定領域を深く学ぶこともできます。自分の将来を見据えて、学びのプランをつくることのできるカリキュラム編成になっています。

<メディア情報学科>

1. メディア情報学科のめざす人材像

メディア情報学科は、メディア及び情報に関する専門の学術を修得し、メディアと情報が人間・社会・文化に及ぼす影響を理解できる能力、またメディアを通じて伝達される情報を的確に選択、分析、論評し、活用できる能力を持ち、それを通して現代の情報社会における様々な問題を解決できる人材の育成を目的としており、以下の能力の修得をめざします。

- ①メディアの発達が社会に与える影響や現代の情報社会を的確に考察できる力と人間の社会行動を科学的に分析する力
- ②メディアを通じて伝えられる情報の価値を正しく評価できる力と人間のコミュニケーション行動を科学的に分析する力
- ③メディアと文化の関係性、その歴史的展開や現代社会における位置づけを批評的に考察できる力
- ④現代のメディアを駆使して新しいコミュニケーションのあり方をデザインし評価できる力

2. メディア情報学科の学びの特色

1) 2つの大領域、4つの小領域から、メディアと情報を学ぶ

メディア情報学科では、メディアと情報について、大きく「社会とメディア」、「文化とメディア」という2つの領域からアプローチしていきます。さらに、「社会とメディア」には「メディア社会」と「メディアコミュニケーション」、「文化とメディア」には、「メディア文化」と「メディアデザイン」と、計4つの小領域が設定されています。広く社会や文化状況と関わる教養と批評力、メディアリテラシー、情報分析技能、情報発信に必要とされるデザイン・制作技能の修得を目標に設定します。これにより卒業後の職業的・社会的自立を目指します。

「メディア社会」の領域では、メディアの発達が社会に与える影響や現代の情報社会の特徴、人間の社会行動を科学的に分析する方法論について、おもに社会学や社会情報学の分野を中心に学んでいきます。

「メディアコミュニケーション」の領域では、マスメディアから情報が伝えられるしくみとその問題点、人間のコミュニケーション行動を科学的に分析する方法論について、おもにジャーナリズムやメディア心理学の分野を中心に学んでいきます。

「メディア文化」の領域では、映像、出版、ファッションなどに焦点を当て、その歴史的展開や現代社会における位置づけ、実践的な情報発信に必要な表現・制作の技能について、おもに芸術学や映像学の分野を中心に学んでいきます。

「メディアデザイン」の領域では、現代のメディアを活用した新しいコミュニケーションのデザイン、コンテンツを設計・開発する技能について、おもにデザイン学や教育工学の分野を中心に学んでいきます。

2) 各学術分野の理論、方法論、制作技術を一体的に学ぶ

各領域の基礎となる学術分野（社会学、心理学、芸術学、デザイン学等）の理論を学ぶことはもちろん、各分野の研究手法や制作技術についても実践的に学んでいく科目構成となっています。教養と実践的スキル双方の修得を重視しています。

3) 学生各自の興味・関心、卒業後の進路に応じた柔軟な科目選択が可能

上記のように、メディア情報学科のカリキュラムは、2つの大領域（社会とメディア・文化とメディア）、4つの小領域（メディア社会・メディアコミュニケーション・文メディア文化・メディアデザイン）から構成されています。各領域に必修科目はありますが、特定の領域を中心に学んでいくことも可能ですし、すべての領域をバランスよく学んでいくことも可能です。メディア情報学科では各自の興味・関心・進路に応じて柔軟な科目選択ができるカリキュラムになっています。

1. 全学共通科目
「人間論」

「人間論」は、梶山女学園の教育理念「人間になろう」を授業科目の形で追求するために設置された科目で、「自校教育」「大学での学び・キャリア教育」「学問的人間論」の3つの柱から構成されています。「自校教育」では梶山女学園の歴史や教育理念を学び、「大学での学び・キャリア教育」ではキャリア形成について考え、「学問的人間論」では多様な学問領域から見た「人間」の多様な側面を理解します。

2. 教養教育科目

<領域1 思想と表現>

人類が構築してきた思想と言語への理解を深め、その所産である言語芸術文化の精髓に触れることによって、人間の精神活動全般について考慮することを目的としています。さらに、言語文化に対する関心を深めることにより、豊かな自己表現能力や的確で合理的な判断力を身に付け、より良い自己の確立が実現することを期待します。

<領域2 歴史と社会>

この領域は、現代社会のさまざまな仕組みと事象を総合的に理解する能力を養うことを目的としています。地球上のさまざまな地域の人々の歴史や社会の仕組み、その文化と生活のあり方、日本の現在の企業の現状や将来の展望を学ぶことにより、わが国の、わが社会の将来のあり方について各自の知識と想像力を養ってください。

<領域3 自然と科学技術>

文明の誕生以来、人間社会は科学・技術の進歩と発展によって支えられてきました。その背景には地球とそこに棲む生物があり、人間はこれらの自然によって生かされて生活してきました。他方、現代は、環境・資源・人口など、人間生存に関わる問題への新たな対応が迫られています。この領域は、自然と科学技術への深い理解にもとづいた、人間の生き方に関する選択・決定能力を養うことを目的としています。

<領域4 数理と情報>

現代の科学・技術は、数理ぬきでは考えられません。量と量の間関係は数式で表され、数理的方法を使えば精密な解析が可能となります。その意味で教養として、また専門の基礎学力として数理的知識を身につけたほうが望ましいと考えられます。また、数理の分野の応用が情報理論、情報科学やコンピュータです。これらの進歩は、我々の生活にも大きな影響を与えていますので、情報技術と社会との関連にまで考察し、身につける必要があります。

<領域5 言語とコミュニケーション>

この科目群は、これからの社会を生きるための基本的能力である外国語コミュニケーション能力の養成を目的としています。言語は英語と中国語、ハングル（韓国語）。英語では、1年次の月曜日から金曜日まで毎日行う外国人教員による授業を必修科目に取り入れ、充実させた内容となっています。また、中国語、ハングル（韓国語）では、

少人数による授業で、聞く・話すに重点を置き、より効率的に能力の向上を目指します。

<領域6 健康とスポーツ>

この領域では、充実した生活の基盤となる健康の保持増進を図るとともに、生涯にわたる豊かなスポーツライフの創造のための知識や技術をスポーツを実践しながら体験します。「スポーツ実習」は唯一のスポーツ場を提供する授業科目で、体内に蓄積された脂肪を燃焼させる十分な運動量を確保することができます。

<領域7 女性とキャリア>

女性として社会で活躍できる基礎的能力・スキルを育成するとともに、自らライフデザインを描き、キャリアを形成するための基礎的能力を育成します。

3. 専門教育科目

◎基礎教育科目

<学部共通 文化情報論>

本講義は、文化情報学の全体を概観し、2年次以降の導入科目として位置づけ、文化、情報、社会組織、人間についての基礎的理解と学習を進めていくための広い視野を身につけることを目的としています。

<日本語・ソシオスキルズ>

国際的な関係が深まる中で、これからの日本人は、母語である日本語について、より深い知識と教養が求められます。日本語では、日本語の基礎的な能力と実用的な表現方法を学びます。また、ソシオスキルズでは、他者との関係の維持・展開のなかで必要とされるスキル・技法について学ぶとともに、スキル・技法の向上をもねらった授業を行います。

<情報リテラシー>

情報はエネルギー、モノとともに3大基本概念の一つです。19世紀の電気革命、近代のデジタル情報革命が社会システムの大変革をもたらし、今や情報リテラシーを身につけることは情報社会を生きる必須の要件となりました。この領域では、人間活動を高度化するための手段として総合的な情報活用力をつけるために基礎的なことを学ぶことを目的としています。

<外国語>

必修科目の英語・中国語を踏まえ、実践的な海外への留学、あるいは就職後に使用することを意識した英語・中国語を学びます。

<基礎演習>

両学科の内容を演習という形式でより深めるために、基礎演習を設けました。両学科1単位ですが、必修科目なので必ず履修しなければなりません。

基礎教養科目からは、文化情報学科では、基礎演習を含め合計15単位以上、メディア情報学科では、基礎演習を含めて合計13単位以上履修します。

◎基幹科目

【文化情報学科】

文化情報学科の基幹科目は、文化情報学の専門的な学習をすすめるための基幹をなす内容の科目から構成されています。「文化・アーカイブス」「アジア・地域・ツーリズム」「社会・ネットワーク」「情報・コンピューティング」の4領域から、学生の興味・関心に合わせた科目の履修が可能です。4領域からは、それぞれ必修科目を含めて6単位以上の選択履修が必要です。

2年次には「基幹演習」が開講されます。この科目は、専門知識や研究方法を自ら調べたり、発表したりしながら基礎的に学ぶ演習科目であり、1科目1単位が必修となっています。基幹科目からは、「基幹演習」を含め合計34単位以上履修します。

【メディア情報学科】

メディア情報学科の基幹科目は、本学科での専門的な学習を進めるための基幹をなす内容の科目から構成されています。自分の興味・関心に合わせて、2つの大領域「社会とメディア」「文化とメディア」から、それぞれ必修科目、選択必修科目を含めて12単位以上の選択履修が必要です。

2年次には「基幹演習」が開講されます。これは、学生各自が専門的なテーマを設定し、関連の文献や資料を調べてプレゼンテーションを行い、それについてディスカッションする演習科目です。1科目1単位が必修となっています。基幹科目からは、「基幹演習」を含め合計33単位以上履修します。

◎展開科目

【文化情報学科】

文化情報学科の展開科目は、基幹科目で学んだ「文化・アーカイブス」「アジア・地域・ツーリズム」「社会・ネットワーク」「情報・コンピューティング」の各領域をさらに深く学んでいくための科目が、充実して配置されています。各領域4単位以上選択履修します。

展開科目からは、展開演習を含め合計24単位以上の履修が必要です。

【メディア情報学科】

メディア情報学科の展開科目は、基幹科目で学んだ「メディア社会」「メディアコミュニケーション」「メディア文化」「メディアデザイン」の各領域をさらに深く学んでいくための科目が、充実して配置されています。大領域「社会とメディア」「文化とメディア」から、それぞれ8単位以上の選択履修が必要です。

展開科目からは、展開演習を含め、また、関連科目（下記参照）と合わせて、合計 30 単位以上の履修が必要です。

◎関連科目

【文化情報学科】

文化情報学科の関連科目は、資格取得をめざす学生がより容易に単位を修得するための科目を多く配置しています。4 単位以上の選択履修が必要です。

【メディア情報学科】

メディア情報学科の関連科目は、コンピュータ、プログラミング、ネットワークの理解に関係する科目を多く配置しています。関連科目の履修単位に条件はありませんが、展開科目と関連科目で合計 30 単位以上の履修が必要です。

◎卒業研究

「卒業研究」は、文化情報学部における 4 年間の学習成果をまとめ、発表するための 4 年次の重要な課題です。本学部の学生は、卒業するために必ず「卒業研究」の成果を提出し、6 単位を修得しなければなりません。

そのために 3 年次後半より必修科目として「卒業研究指導」を設け、4 年生での「卒業研究」に結びつくように、指導を行います。「卒業研究」の作成、執筆は、それぞれ決められた教員の指導のもとで行います。担当教員については、3 年次前期のガイダンスの後で、指導を希望する教員についてのアンケート調査をもとに、調整を行って決定されます。

「卒業研究」の形式（枚数、執筆要項、表紙など）、提出期限、提出先等の詳細については、その都度 S*map のジャーナル等で知らせますので注意してください。

◎文化情報学科 カリキュラムフロー

履修ガイド

	全学 共通 科目	教養教育科目	専門教育科目			
			基礎教育科目			
			学部共通	日本語・ ソシオスキルズ	情報リテラシー	外国語
1 年次	人間論	[領域1] 思想と表現 哲学 文学 芸術* など [領域2] 歴史と社会 歴史 日本国憲法 経済 地理 など [領域3] 自然と科学技術 環境の科学 地球の科学 生命の科学 など [領域4] 数理と情報 数理の世界 統計の世界 コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ [領域5] 言語と コミュニケーション 外国語(英語A・B・C* D*) 外国語(中国語Ⅰ・Ⅱ) 外国語(イングリッシュ*) など [領域6] 健康とスポーツ 健康とスポーツの理論* スポーツ実習 (A・B) [領域7] 女性とキャリア ファーストイヤーゼミ 安全学 日本語表現法基礎 など	文化情報論	レポート 論文技法 日本語表現法	メディア・リテラシー インターネット基礎 デジタルメディア基礎 情報科学基礎 情報処理論	中国語基礎文法 中国語 会話 海外言語文化演習 A B・C 海外言語文化事情 A B・C
2 年次				日本語論 言語学概論 プレゼンテーション技法 ワークショップ技法	情報セキュリティと倫理	ホームステイ・イングリッシュ 実践中国語A・B
				ソーシャル・スキル トレーニング キャリアデザイン		
3 年次						
4 年次						

※教養教育科目の配置はカテゴリーごとに表示。科目名に*が付記されているものは2年次開講科目。

※専門科目の配置は開講年次に基づく。過年度でも受講可能。

専門教育科目

文化 ・ アーカイブス	アジア・ 地域・ ツーリズム	社会 ・ ネットワーク	情報 ・ コンピューティング	関連科目
図書館概論 博物館概論	アジア文化交流論 文化と地域 観光学	社会組織論 女性とライフコース 情報産業	情報処理概論	
基幹科目				
基幹演習				
日本の伝統と文化 東海・名古屋研究 物質文化論 音楽と芸能 日常動作法 図書・図書館史特論 デジタルアーカイブ論	アジアの都市 現代中国の社会と文化 アジアのことば 地域デザイン論 観光とホスピタリティ	都市計画論 ビジネスと情報 リスクマネジメント マーケティング論 地域創造学 まちづくり学 社会調査入門	情報社会と情報技術 情報処理演習 情報通信論 データベースシステム 情報デザイン論 web デザイン グラフィックデザイン サウンドデザイン 人工知能 プログラミング 1 プログラミング 2	生涯学習概論 博物館展示論 文化人類学 仕事学概論 ビジネス文書と文書管理
展開演習 1				
比較文化論 日本事情英語 日本文化論 図書館サービス概論 情報サービス論 博物館経営論 博物館情報・メディア論	アジア地域論	多文化共生社会 グローバルビジネス	通信ネットワーク論 映像・アニメーション制作	
展開演習 2				
文化遺産論 パフォーマンス・アート 実務応用演習 A	韓国文化論 (基幹科目) 東アジア地誌論 東アジアの社会と経済 グローバル社会論 国際関係論 アジア文化史 観光デザイン論 観光産業論 観光英語 フィールドワーク技法 実務応用演習 B	ビジネス英語 経営情報システム 現代産業事情 職業と雇用 情報ネットワーク社会論 コミュニティデザイン論 実務応用演習 C	情報システム論 ハードウェア論 ソフトウェア論 インターネット論 画像情報論 知能情報システム データベース演習 プログラミング応用 シミュレーション 三次元グラフィックス 実務応用演習 D	教育社会学 社会教育演習 生涯学習各論 余暇学 少子高齢化社会 情報と法 スキルアップ英語
卒業研究指導 1				
卒業研究指導 2				
卒業研究				

◎メディア情報学科 カリキュラムフロー

履修ガイド

1年次

2年次

3年次

4年次

全学 共通 科目	教養教育科目	専門教育科目			
		基礎教育科目			
		学部共通	日本語・ ソシオスキルズ	情報リテラシー	外国語
人間論	[領域1] 思想と表現 哲学 文学 芸術* など [領域2] 歴史と社会 歴史 日本国憲法 経済 地理 など [領域3] 自然と科学技術 環境の科学 地球の科学 生命の科学 など [領域4] 数理と情報 数理の世界 統計の世界 コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ [領域5] 言語と コミュニケーション 外国語(英語A・B・C* D*) 外国語(中国語Ⅰ・Ⅱ) 外国語(ハングルⅠ・Ⅱ*) など [領域6] 健康とスポーツ 健康とスポーツの理論* スポーツ実習 (A・B) [領域7] 女性とキャリア ファーストイヤーゼミ 安全学 日本語表現法基礎 など	文化情報論	レポート 論文技法 日本語表現法	メディア・リテラシー インターネット基礎 デジタルメディア基礎 情報科学基礎 情報処理論	中国語基礎文法 中国語 会話 海外言語文化演習 A B・C 海外言語文化事情 A B・C
			基礎演習		
			日本語論 言語学概論 プレゼンテーション技法 ワークショップ技法	情報セキュリティと倫理	ホームステイ・イングリッシュ 実践中国語A・B
			ソーシャル・スキル トレーニング キャリアデザイン		

※教養教育科目の配置はカテゴリーごとに表示。科目名に*が付記されているものは2年次開講科目。

※専門科目の配置は開講年次に基づく。過年度でも受講可能。

社会とメディア		文化とメディア		関連科目
メディア社会	メディアコミュニケーション	メディア文化	メディアデザイン	
メディア社会論 社会情報学 社会リサーチ基礎	メディア心理学 ジャーナリズム論 放送社会論 データ解析入門	メディア文化論 映像制作概論 メディア文化分析入門	情報デザイン入門 メディアデザイン論 映像・音響情報論	基幹科目
基幹演習				
地域情報論 社会心理学 メディアと若者 ソーシャル・メディアと社会 社会調査入門 情報検索技法 メディアと世論	マスメディア論 メディア倫理 取材活動論 認知心理学 データ収集法 データ解析論	出版文化論 広告論 メディアと言語 メディア戦略論 メディアコンテンツ論 スタジオ制作 スピーチ・コミュニケーション	デジタルメディア論 web デザイン グラフィックデザイン 社会学習論 インターネット技法 画像編集技法 映像撮影技法	
展開演習 1				展開科目
ビジネスと情報 都市とメディア マーケティング論	適応行動論	ファッション文化論 映像・映画学	学習環境デザイン論 色彩コミュニケーション	
展開演習 2				
情報ネットワーク社会論 メディア社会史 メディアと産業 メディアと公共 社会調査技法 フィールドワーク技法 応用フィールドワーク	英語圏メディア事情 映像ジャーナリズム論 現代社会とジャーナリズム 芸能・スポーツジャーナリズム メディア応用心理学 臨床メディア論 データ解析技法 コミュニケーション・ライティング メディア英語	ファッション心理学 広報・宣伝論 ポピュラーカルチャー論 メディア文化研究 メディアと書 映像制作演習 広告制作 メディア情報分析	イベントプロデュース 編集デザイン ソフトウェア論 メディアデザイン研究 動画制作 web プログラミング デジタルサウンド演習	
卒業研究指導 1				卒業研究
卒業研究指導 2				
卒業研究				

4年以上在学し、所定の単位数を修得した者には卒業資格が与えられます。
卒業までに必要な最低修得単位数は次のとおりです。

◎卒業に必要な単位数の一覧表

授業科目区分		学科	文化情報学科	メディア情報学科
全学共通科目「人間論」			2単位	
教養教育科目	領域1 思想と表現		領域6を含めたうちから4単位	
	領域2 歴史と社会			
	領域3 自然と科学技術		4単位	
	領域4 数理と情報		5単位	
	領域5 言語とコミュニケーション		領域1と領域2を含めたうちから4単位	
	領域6 健康とスポーツ		1単位	
	領域7 女性とキャリア		19単位	
	上記(領域1～領域7)から			
専門教育科目	基礎教育科目	15単位	13単位	
	基幹科目	34単位	33単位	
	展開科目	24単位	30単位	
	関連科目	4単位		
	卒業研究指導		4単位	
	卒業研究		6単位	
(自由選択)		18単位	19単位	
卒業に必要な単位数の合計			126単位	

◎修得単位の目安

通常の4年間での卒業を想定すると、1～3年までは年間40単位程度を目安とし、下記の単位数を修得しておくことをお勧めします。

1年次終了時 35～40単位(大半の学生は約35単位以上を修得しています。)

2年次終了時 75～80単位(大半の学生は約75単位以上を修得しています。)

3年次終了時 110～120単位*(大半の学生は約110単位以上を修得しています。)

*4年次では卒業研究関連の学習や就職活動等に多大な時間がかかり、年間で30～40単位の修得が困難となる可能性が高いため、3年次までで120単位程度修得されていることが望ましい。

上記の単位数はあくまで目安であり、これらを下回っている場合でも上級学年に進級できないわけではありません。しかし、これらを著しく下回っている場合には卒業延期の可能性が高まることが予想されます。以上を参考にして単位修得していくように心がけてください。

◎（自由選択）の単位に含まれるもの

文化情報学科	メディア情報学科
1. 教養教育科目	1. 教養教育科目
2. 文化情報学科で開設している専門教育科目	2. メディア情報学科で開設している専門教育科目
3. メディア情報学科のみで開設されている学科専門科目	3. 文化情報学科のみで開設されている学科専門科目
4. 英検、TOEICおよびTOEIC IP、TOEFL、中国語検定試験、HSKによって得た級または得点（最大2単位） （「9. 外国語検定による単位認定制度」を参照）	4. 英検、TOEICおよびTOEIC IP、TOEFL、中国語検定試験、HSKによって得た級または得点（最大2単位） （「9. 外国語検定による単位認定制度」を参照）
5. 情報処理技術者試験、情報検定試験、パソコン検定試験、マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト試験によって得た資格、級、レベル（合計最大6単位） （「10. 情報系検定による単位認定制度」を参照）	5. 情報処理技術者試験、情報検定試験、パソコン検定試験、マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト試験によって得た資格、級、レベル（合計最大6単位） （「10. 情報系検定による単位認定制度」を参照）
6. 本学での他学部・他学科の開放科目	6. 本学での他学部・他学科の開放科目
7. 愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目	7. 愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目
8. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目	8. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目

◎履修規制単位数

学科	1年次	2年次	3年次	4年次
文化情報学科	48単位	48単位	48単位	48単位
メディア情報学科	44単位	44単位	44単位	44単位

※年間のGPAが3.0以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を8単位まで上限緩和する。
GPA制度については第1部履修要項1-7をご覧ください。

※各科目の○印は開講学年を表します。上級学年も履修可能。

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考		
文化情報学科・メディア情報学科 教養教育科目	① 思想と表現	哲学		2	○			領域⑥を含めたうちから4単位以上選択履修		
		文学		2	○					
		芸術		2	○					
		心理		2	○					
		言語		2	○					
	人類学		2	○						
	② 歴史と社会	歴史		2	○					
		法		2	○					
		日本国憲法		2	○					
		経済		2	○					
		社会		2	○					
		地理		2	○					
	③ 自然科学と 科学技術	物理の世界		2	○				必修を含め4単位以上選択履修	
		化学の世界		2	○					
		環境の科学		2	○					
		地球の科学		2	○					
		生命の科学		2	○					
	④ 数理と 情報	数理の世界		2	○					
		統計の世界		2	○					
		コンピュータと情報Ⅰ	必修	2	○					
		コンピュータと情報Ⅱ		2	○					
	⑤ 言語とコミュニケーション	外国語（英語 A）	必修	1	○			必修を含め19単位以上選択履修		
		外国語（英語 B）	必修	1	○					
		外国語（英語 C）	必修	1		○				
		外国語（英語 D）		1		○				
		外国語（ドイツ語Ⅰ）		1	○					
		外国語（ドイツ語Ⅱ）		1	○					
		外国語（フランス語Ⅰ）		1	○					
		外国語（フランス語Ⅱ）		1	○					
		外国語（中国語Ⅰ）	必修	1	○					
		外国語（中国語Ⅱ）	必修	1	○					
		外国語（ポルトガル語Ⅰ）		1	○					
		外国語（ポルトガル語Ⅱ）		1	○					
		外国語（スペイン語Ⅰ）		1	○					
		外国語（スペイン語Ⅱ）		1	○					
	外国語（ハングルⅠ）		1	○						
	外国語（ハングルⅡ）		1		○					
	⑥ 健康と スポーツ	健康とスポーツの理論		2	○			領域①、領域②を含めたうちから4単位以上選択履修		
		健康科学		1	○					
		スポーツ実習 A		1	○					
		スポーツ実習 B		1	○					
	⑦ 女性とキャリア	ファーストイヤーゼミ	必修	1	○			必修を含め1単位以上選択履修		
仕事学入門			2	○						
ライフデザイン			2	○						
ピア・サポート理論と実践			2	○						
インターンシップⅠ			1		○					
インターンシップⅡ			1		○					
ジェンダー論入門		2	○							

(2020年度以降入学生)

学科	授業科目		区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考	
メディア情報学科 基礎教育科目	キャリア ⑦女性と	安全学		2	○					
		日本語表現法基礎		2	○					
		時事問題の理解		2	○					

(2020年度以降入学生)

文化情報学科
専門教育科目

学科	授業科目		区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考	
文化情報学科	学部共通	文化情報論	◇	必修	2	○				2単位必修
		ソシオスキルズ 日本語・	レポート・論文技法	◇		2	○			
	日本語表現法		◇		2	○				
	日本語論		◇		2		○			
	言語学概論		◇		2		○			
	プレゼンテーション技法		◇		2		○			
	ワークショップ技法		◇		2		○			
	ソーシャル・スキル・トレーニング		◇		2			○		
	キャリアデザイン		◇		2			○		
	情報リテラシー	メディア・リテラシー	◇		2	○				必修を含め4単位 以上選択履修
		インターネット基礎	◇		2	○				
		情報セキュリティと倫理	◇		2		○			
		デジタルメディア基礎	◇		2	○				
		情報科学基礎	◇		2	○				
		情報処理論	◇	必修	2	○				
	外国語	ホームステイ・イングリッシュ	◇		1		○			必修を含め2単位 以上選択履修
		中国語基礎文法	◇	必修	1	○				
		中国語基礎会話	◇		1	○				
		実践中国語 A	◇		1		○			
		実践中国語 B	◇		1		○			
		海外言語文化演習 A	◇		2	○				
		海外言語文化演習 B	◇		2	○				
		海外言語文化演習 C	◇		2	○				
		海外言語文化事情 A	◇		1	○				
		海外言語文化事情 B	◇		1	○				
	海外言語文化事情 C	◇		1	○					
	演習	基礎演習		必修	1	○				1単位必修
基幹科目	文化・アーカイブス	日本の伝統と文化			2		○		必修を含め6単位 以上選択履修	
		東海・名古屋研究			2		○			
		物質文化論			2		○			
		音楽と芸能			2		○			
		日常動作法			2		○			
		図書館概論			2	○				
		図書・図書館史特論			2	○				
		博物館概論			2	○				
		デジタルアーカイブ論		必修	2		○			
	アジア・地域・ツーリズム	アジア文化交流論		必修	2	○			必修を含め6単位 以上選択履修	
		アジアの都市			2		○			
		現代中国の社会と文化			2		○			
		韓国文化論			2			○		
		アジアのことば			2		○			
		文化と地域			2	○				
		地域デザイン論			2		○			
		観光学			2	○				
		観光とホスピタリティ			2		○			
		ネットワーケ 社会・	社会組織論			2	○			
	女性とライフコース			必修	2	○				
都市計画論				2		○				
ビジネスと情報			◇	2		○				

◇文化情報学科・メディア情報学科 共通開講科目

(2020年度以降入学生)

文化情報学科
専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
文化情報学科	ネットワーキング 社会・	情報産業		2	○				
		リスクマネジメント		2		○			
		マーケティング論	◇	2		○			
		地域創造学		2		○			
		まちづくり学		2		○			
		社会調査入門	◇	2		○			
	基幹科目 情報・コンピューティング	情報社会と情報技術		2		○		必修を含め6単位以上選択履修	
		情報処理概論	必修	2	○				
		情報処理演習	◇	1		○			
		情報通信論	◇	2		○			
		データベースシステム		2		○			
		情報デザイン論		2		○			
		web デザイン	◇	2		○			
		グラフィックデザイン	◇	2		○			
		サウンドデザイン	◇	2		○			
		人工知能		2		○			
	プログラミング1	◇	2		○				
	プログラミング2	◇	2		○				
	演習	基幹演習	必修	1		○		1単位必修	
文化情報学科	文化・アーカイブス	日本文化論		2	○			4単位以上選択履修	必修を含め24単位以上選択履修
		比較文化論		2	○				
		文化遺産論		2			○		
		パフォーミング・アート		2			○		
		日本事情英語		2	○				
		図書館サービス概論		2	○				
		情報サービス論	◇	2	○				
		博物館経営論		2	○				
		博物館情報・メディア論		2	○				
	実務応用演習A		2			○			
	展開科目 アジア・地域・ツーリズム	アジア地域論		2	○			4単位以上選択履修	
		東アジア地誌論		2		○			
		東アジアの社会と経済		2		○			
グローバル社会論			2		○				
国際関係論			2		○				
アジア文化史			2		○				
観光デザイン論			2		○				
観光産業論			2		○				
観光英語		1		○					
フィールドワーク技法	◇	2		○					
実務応用演習B		2		○					
社会・ネットワーク	多文化共生社会		2		○		4単位以上選択履修		
	グローバルビジネス		2		○				
	ビジネス英語		1			○			
	情報ネットワーク社会論	◇	2			○			
	経営情報システム		2		○				
	現代産業事情		2		○				
	職業と雇用		2		○				
	コミュニティデザイン論		2		○				
	実務応用演習C		2		○				
情報・コンピューティング	情報システム論	◇	2		○		4単位以上選択履修		
	ハードウェア論	◇	2		○				
	ソフトウェア論	◇	2		○				
	通信ネットワーク論	◇	2		○				
	インターネット論	◇	2		○				
	画像情報論		2		○				
	知能情報システム		2		○				
データベース演習		1		○					

◇文化情報学科・メディア情報学科 共通開講科目

(2020年度以降入学生)

履修ガイド

文化情報学科
専門教育科目

学科	授業科目		区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考		
文化情報学科	展開科目	コンピュータ情報・メディアデザイン	プログラミング応用		2			○				
			シミュレーション		2			○				
			三次元グラフィックス ◇		2			○				
			映像・アニメーション制作		2		○					
			実務応用演習D		2			○				
	演習	展開演習 1	必修	1		○			2 単位必修			
		展開演習 2	必修	1			○					
	関連科目	教育社会学 ◇		2				○		4 単位以上 選択履修		
		社会教育演習		1				○				
		生涯学習概論		2		○						
		生涯学習各論		2				○				
		博物館展示論		2		○						
		文化人類学		2		○						
		余暇学		2				○				
		少子高齢化社会		2				○				
		情報と法 ◇		2				○				
		スキルアップ英語		1				○				
		仕事学概論		2		○						
	ビジネス文書と文書管理		2		○							
卒業研究	卒業研究指導 1	必修	2				○		2 単位必修			
	卒業研究指導 2	必修	2					○	2 単位必修			
	卒業研究	必修	6					○	6 単位必修			
	自由選択単位								18 単位以上選択履修			

◇文化情報学科・メディア情報学科 共通開講科目

(2020 年度以降入学生)

メディア情報学科
 専門教育科目

学科	授業科目		区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
メディア情報学科	基礎教育科目	学部共通	文化情報論	必修	2	○			2単位必修	
		ソシオスキルズ 日本語・ 日本語	レポート・論文技法	必修	2	○				必修を含め4単位 以上選択履修
			日本語表現法	必修	2	○				
			日本語論	必修	2		○			
			言語学概論	必修	2		○			
			プレゼンテーション技法	必修	2		○			
			ワークショップ技法	必修	2		○			
			ソーシャル・スキル・トレーニング	必修	2			○		
		キャリアデザイン	必修	2			○			
		情報リテラシー	メディア・リテラシー	必修	2	○				必修を含め4単位 以上選択履修
			インターネット基礎	必修	2	○				
			情報セキュリティと倫理	必修	2		○			
			デジタルメディア基礎	必修	2	○				
			情報科学基礎	必修	2	○				
	外国語	情報処理論	必修	2	○				必修を含め13単位以上 選択履修	
		ホームステイ・イングリッシュ	必修	1		○				
		中国語基礎文法	必修	1	○					
		中国語基礎会話	必修	1	○					
		実践中国語 A	必修	1		○				
		実践中国語 B	必修	1		○				
		海外言語文化演習 A	必修	2	○					
		海外言語文化演習 B	必修	2	○					
		海外言語文化演習 C	必修	2	○					
	演習	海外言語文化事情 A	必修	1	○				必修を含め2単位 以上選択履修	
		海外言語文化事情 B	必修	1	○					
		海外言語文化事情 C	必修	1	○					
	基礎演習	必修	1	○				1単位必修		
基礎科目	社会とメディア	メディア社会	メディア社会論	必修	2	○			必修及び選択必修 を含め12単位以上 選択履修 ※「社会リサーチ 基礎」、「データ解 析入門」いずれか を選択必修	
			社会情報学	必修	2	○				
			地域情報論	必修	2		○			
			社会心理学	必修	2		○			
			メディアと若者	必修	2		○			
			ソーシャル・メディアと社会	必修	2		○			
			メディアと世論	必修	2		○			
			社会リサーチ基礎	選択必修	2	○				
			社会調査入門	必修	2		○			
	メディアコミュニケーション	メディアコミュニケーション	情報検索技法	必修	2		○			
			メディア心理学	必修	2	○				
			ジャーナリズム論	必修	2	○				
			マスメディア論	必修	2		○			
			放送社会論	必修	2	○				
			メディア倫理	必修	2		○			
			認知心理学	必修	2		○			
			データ解析入門	選択必修	2	○				
			データ収集法	必修	2		○			
			データ解析論	必修	2		○			
			取材活動論	必修	2		○			
			文化とメディア	メディア文化	メディア文化論	必修	2	○		
映像制作概論	必修	2			○					
出版文化論	必修	2				○				
広告論	必修	2				○				
メディアと言語	必修	2				○				
メディア戦略論	必修	2				○				
メディアコンテンツ論	必修	2				○				

◇文化情報学科・メディア情報学科 共通開講科目

(2020年度以降入学生)

履修ガイド

メディア情報学科
専門教育科目

学科	授業科目		区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考	
メディア情報学科	基幹科目	文化とメディア	メディア文化分析入門	選択必修	2	○				1単位必修	
			スタジオ制作		2		○				
			スピーチ・コミュニケーション		2		○				
		メディアデザイン	メディアデザイン論	必修	2	○					
			映像・音響情報論		2	○					
			デジタルメディア論		2		○				
			webデザイン	◇	2		○				
			グラフィックデザイン	◇	2		○				
			社会学習論		2		○				
			情報デザイン入門	選択必修	2	○					
	インターネット技法		2		○						
	画像編集技法		2		○						
	映像撮影技法		2		○						
演習	基幹演習	必修	1		○						
メディア情報学科	展開科目	社会とメディア	ビジネスと情報	◇	2		○		うち8単位以上 選択履修		
			都市とメディア		2		○				
			情報ネットワーク社会論	◇	2			○			
			メディア社会史		2			○			
			メディアと産業		2			○			
			メディアと公共		2			○			
			マーケティング論	◇	2		○				
			社会調査技法		2			○			
			フィールドワーク技法	◇	2			○			
		応用フィールドワーク		2			○				
		メディアコミュニケーション	適応行動論		2		○				
			英語圏メディア事情		2			○			
			映像ジャーナリズム論		2			○			
			現代社会とジャーナリズム		2			○			
			芸能・スポーツジャーナリズム		2			○			
	メディア応用心理学			2			○				
	文化とメディア	臨床メディア論		2			○				
		データ解析技法		2			○				
		コミュニケーション・ライティング		2			○				
		メディア英語		2			○				
		ファッション文化論		2		○					
	メディアデザイン	映像・映画学		2		○					
		ファッション心理学		2			○				
		広報・宣伝論		2			○				
		ポピュラーカルチャー論		2			○				
		メディア文化研究		2			○				
		メディアと書		2			○				
		映像制作演習		2			○				
		広告制作		2			○				
		メディア情報分析		2			○				
学習環境デザイン論			2		○						
演習	色彩コミュニケーション		2		○						
	イベントプロデュース		2			○					
	編集デザイン		2			○					
	ソフトウェア論	◇	2			○					
	メディアデザイン研究		2			○					
	動画制作		2			○					
	webプログラミング		1			○					
	デジタルサウンド演習		1			○					
展開演習1	必修	1		○							
展開演習2	必修	1			○						

◇文化情報学科・メディア情報学科 共通開講科目

(2020年度以降入学生)

メディア情報学科

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
メディア情報学科	情報処理演習	◇	1		○			
	通信ネットワーク論	◇	2		○			
	情報サービス論	◇	2		○			
	プログラミング1	◇	2		○			
	プログラミング2	◇	2		○			
	情報通信論	◇	2		○			
	インターネット論	◇	2			○		
	情報システム論	◇	2			○		
	三次元グラフィックス	◇	2			○		
	教育社会学	◇	2			○		
	サウンドデザイン	◇	2		○			
	情報と法	◇	2			○		
	ハードウェア論	◇	2			○		
卒業研究	卒業研究指導1	必修	2			○		2単位必修
	卒業研究指導2	必修	2				○	2単位必修
	卒業研究	必修	6				○	6単位必修
	自由選択単位							19単位以上選択履修

◇文化情報学科・メディア情報学科 共通開講科目

(2020年度以降入学生)

1. 概要
この制度は、文化情報学部の学生が入学前または入学後に受験した「英検」「TOEIC」「TOEFL」「中国語検定」などの外国語検定試験で、所定の級や点数を得た学生に対し、その級または点数に基づいて、文化情報学部の単位を認定するものです。
2. 対象となる外国語検定試験
単位認定の対象となる外国語検定試験は次の種類です。
① 実用英語技能検定試験（英検）
② Test of English for International Communication (TOEIC および TOEIC IP)
③ Test of English as a Foreign Language (TOEFL)
④ 中国語検定試験
⑤ 漢語水平考試 (HSK)
3. 認定される単位
外国語検定試験の結果に基づいて最大2単位が認定されます。この制度で単位認定を受けるには、指定された外国語検定試験のいずれか一つにおいて、下表に定める級または点数を得なければなりません。
認定された単位は、「自由選択」の単位に算入し、卒業単位とすることができます。
- | 外国語検定の種類 | 級または点数 |
|---|--|
| 実用英語技能検定試験(英検)[(公財)日本英語検定協会] | 2級以上 |
| Test of English for International Communication (TOEIC・TOEIC IP)[(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会] | 500点以上 |
| Test of English as a Foreign Language (TOEFL) [Educational Testing Service] | Paper-based: 470点以上
※ 2007年に廃止された制度です。
Computer-based: 150点以上
※ 2006年に廃止された制度です。
Internet-based: 52点以上 |
| 中国語検定試験[(一財)日本中国語検定協会] | 3級以上 |
| 漢語水平考試(HSK)[中華人民共和国 教育部] | 4～6級 |
4. 単位認定の申請方法
外国語検定試験において所定の級または点数を得た学生が、単位認定を希望する場合は、「外国語検定単位認定申請書」に級の認定書または得点証明書（コピー不可）を添え、次に示す期間に教務課まで提出します。

前期提出期間：前期授業開始日～前期試験終了日
後期提出期間：後期授業開始日～後期試験終了日
5. 成績評価
この制度によって認定された単位は、通常科目のような評価でなく、認定のみがされ「N」評価となります。

1. 概要

この制度は、文化情報学部の学生が入学前または入学後に受験した情報処理技術者試験、情報検定試験、パソコン検定試験、マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト試験の情報系検定試験で、所定の試験・級・レベルに合格した学生に対し、その試験・級・レベルに基づいて、文化情報学部の単位を認定するものです。

2. 対象となる情報系検定試験

単位認定の対象となる情報系検定試験は次の4種類です。

- ①情報処理技術者試験
- ②情報検定試験
- ③パソコン検定試験
- ④マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト試験

3. 認定される単位

情報系検定試験の結果に基づいて、自由単位あるいは対応する授業科目の単位が認定されます。この制度で単位認定を受けるには、指定された情報系検定試験において、下表に定める試験・級・レベルに合格しなければなりません。

認定された単位は、「自由選択」あるいは対応する授業科目の単位に算入し（ただし、合計最大6単位以内）、卒業単位とすることができます。

試験の種類	対象となる試験・級・レベル	認定単位数	対応授業科目	備考
情報処理技術者	基本情報技術者 (上級資格を含む) [(独)情報処理推進機構]	6	自由選択単位 プログラミング1 プログラミング2 プログラミング応用 ソフトウェア論 ハードウェア論 情報処理論	
	ITパスポート[(独)情報処理推進機構]	4	自由選択単位 ソフトウェア論 ハードウェア論 情報処理論	
情報検定(J検)	情報システム (システムエンジニア認定、プログラマ認定) [(一財)職業教育・キャリア教育財団]	4	情報リテラシーの科目	読み替え
	情報活用(1級、2級) [(一財)職業教育・キャリア教育財団]	2	情報リテラシーの科目	読み替え
パソコン検定(P検)	3級以上[ICTプロフィシエンシー検定協会]	2	情報リテラシーの科目	読み替え
マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト	Expert (Word) [Microsoft Corporation]	2	コンピュータと情報Ⅰ	
	Expert (Excel) [Microsoft Corporation]	2	コンピュータと情報Ⅱ	

(2017年度以降入学生適用)

4. 単位認定の申請方法

情報系検定試験において所定の試験・級・レベルに合格した学生が、単位認定を希望する場合は、「情報系検定試験単位認定申請書」に合格証書、または合格証明書（コピー不可）を添え、次に示す期間に教務課まで提出します。

前期提出期間：前期授業開始日～前期試験終了日

後期提出期間：後期授業開始日～後期試験終了日

5. 成績評価

この制度によって認定された単位は、通常科目のような評価でなく、認定のみがされ「N」評価となります。

1. 教職課程とは

大学、高専を除くすべての国公私立の学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員になるためには、常勤、非常勤を問わず教育職員免許状の取得が必要です。

教育職員免許状を取得するには、「教育職員免許法」「教育職員免許法施行規則」等の法令に基づき、文部科学大臣の認定を受けた大学等の課程において所定の単位を修得しなければなりません。

本学では各学部・学科において、以下の免許・教科の教職課程を開設しています。

学部	学科	認定を受けている免許種・教科		
生活科学部	管理栄養学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	栄教一種
	生活環境デザイン学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	中一種(英語)	高一種(英語)	
	表現文化学科	中一種(国語)	高一種(国語)	
人間関係学部	人間関係学科	中一種(社会)	高一種(公民)	
	心理学科	高一種(公民)		
文化情報学部	文化情報学科	高一種(情報)		
	メディア情報学科	高一種(情報)		
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	中一種(社会)	高一種(公民)	高一種(商業)
教育学部	子ども発達学科	幼一種	小一種	中一種(数学)
		中一種(音楽)	高一種(数学)	高一種(音楽)
		特支一種		
看護学部	看護学科	養教一種		

2. 教員養成の方針

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（2021年1月26日／中央教育審議会答申）において、「令和の日本型学校教育」を担う教師及び教職員集団の姿が次のとおり示されました。

- ・変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続ける
- ・子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たす
- ・子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
- ・多様な人材の教育界内外からの確保や、教師の資質・能力の向上により、質の高い教職員集団を実現する
- ・多様な外部人材や専門スタッフ等とがチームとして力を発揮する
- ・教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、教師自身も志気を高め、誇りを持って働くことができる

このような教師像は、換言すれば、教師としての専門的能力を有することに加え、自身を高め続けられる向上心、他者と協働するコミュニケーション能力、変化の激しい時代に適応する問題発見・課題解決能力を有する教師と言えます。

本学では、教育理念「人間になろう」を踏まえ、これらの能力をあわせもった教員——つまり、高い専門性と豊かな人間性、優れた人格を兼ね備えた教員の養成を目指します。

3. 教職課程履修上の諸注意

《心構え》

教職課程を履修する上で最も大切なことは、将来教師になるという明確な目標と自覚を持ち、常日頃から教師としてふさわしい態度や行動を心がけることです。教師の資質や能力は教職課程に関わる科目の履修のみならず、様々な経験や体験、日頃の行動などによっても養われます。授業で学んだことを児童・生徒にどのように指導するのか、また、自らの経験や体験を教師としてどう活かしていくのかといった視点を常に持ちながら学生生活を送るよう心がけてください。

《履修計画》

本学の教職課程は、1年次から4年次までの4年間を基本としたカリキュラム構成となっています。したがって、原則として1年次から履修を開始し、必要な科目を学年配当に沿って4年間をかけて段階的・計画的に履修していくことが必要です。例えば2年次以降から履修を開始した場合や、留学や休学などで履修を一時中断した場合は、4年次で卒業するまでの間に履修を終えることが困難になる場合がありますので注意が必要です。

《各種手続等について》

教職課程履修者は教職課程に関するガイダンス等の諸行事には必ず出席するとともに、大学が定めた所定の手続（教育実習申し込みなど）を行わなければなりません。諸行事への遅刻・無断欠席や所定期日内の手続未了の場合は、その参加を辞退していただく場合がありますので注意してください。

4. 教職課程登録手続

1年次4月に実施される教職課程登録ガイダンスに参加し、所定の期間内に教職課程履修費を納入するとともに、教務課へ教職課程履修登録届を提出してください。

また、1年次前期の履修登録期間にS*mapの履修登録画面から、取得を希望する免許の仮申請を行ってください。

5. 教職課程で必要となる費用

教職課程の履修にあたっては主に以下の費用が必要となります。

《教職課程履修費》

課程の種類	金額	納入時期
高等学校の課程	14,000円	1年次4月

《実習費等》

実習等の種類	金額	納入時期
教育実習	実習先指定額	実習時

《教育職員免許状発行手数料》

費用の種類	金額	納入時期
教育職員免許状発行手数料（1免許につき）	3,400円	4年次11月

※上記の発行手数料は愛知県教育委員会への支払いとなります。

6. 教育職員免許状取得に必要な基礎資格と単位数
- 教育職員免許状を取得するためには、以下の基礎資格を有し、各科目の最低修得単位数を満たす必要があります。ただし、以下の表に記載されている単位数は法令上の最低修得単位数です。実際のカリキュラムでは最低修得単位数以上の単位数修得が必要な場合がありますので注意してください。

免許状の種類		高等学校教諭 一種免許状
基礎資格		学士の学位を有すること
法令上の最低修得 単位数	① 「教科及び教科の指導法に関する科目」	24
	「教育の基礎的理解に関する科目」	23
	② 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」	
	「教育実践に関する科目」	
	③ 「大学が独自に設定する科目」	12
④ その他の必修科目	8	

7. 教育実習

「教育実習」は教育職員免許状取得のための必修科目です。教育実習は学内で行われる授業とは異なり、実際の学校現場において現場の教師と同様に勤務しながら教育活動の重要な領域を行動的に経験し、教職についての認識を深め、自己の教職への適性を把握する重要な機会となります。

教育実習の目的は、教育者としての基本的な態度・技能を身に付けることにあります。具体的には、観察・参加・実習等を通じて教育者としての実地修練を行うことにより、教育についての理解を深め、指導技術を体得するとともに、教育に携わる者としての自覚と熱意を高め、優秀な教育者として活動し得る素地を養うことにあります。

これらの目的は短期間の実習のみで達成できるものではありません。日頃から、将来教師になる者としての自覚を持ち、教育実習に耐え得る健康を保持するなど、教師としての資質向上に努めてください。

＜教育実習の履修要件＞

- ① 将来教職に就く意思を有し、都道府県及び政令指定都市教育委員会が実施する教員採用試験を必ず受験すること。
- ② 3年次終了までに以下の単位数を履修済みであることを原則とする。
 - ・「教養教育科目」の必要最低単位数をすべて履修済みであること。
 - ・「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」を履修し、かつその成績が良好であること。
 - ・「教科の指導法Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであること。
- ③ 「事前及び事後指導」を履修すること。
- ④ 教職課程履修上の各種手続を遅滞なく済ませていること。

◀必要実習期間と履修登録科目▶

教育実習の履修登録は、取得する免許・実習期間に応じ、4年次前期に以下のとおり登録してください。

ただし、教育実習の事前指導は3年次から始まりますので、「事前及び事後指導（1単位）」は3年次前期にも履修登録をしてください。（単位認定は事後指導後、4年次後期に行われます。）

取得予定免許	必要実習期間	履修登録科目
高一種免	高等学校で2週間以上	事前及び事後指導（1単位） 教育実習A（2単位）

※上記の実習パターンに該当しない場合は、パターンによって履修登録科目が変わりますので、必ず教務課の窓口で履修指導を受けてから履修登録してください。

8. 履修カルテ 教職実践演習

◀履修カルテとは▶

教育職員免許法施行規則の改正に伴い、2010年度入学生から「教職実践演習」が必修化されました。「教職実践演習」は、教職課程における授業科目の履修や教職課程内外での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が求める教員像や到達目標に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるものです。

履修カルテは、教職課程を履修する学生が、授業や課外活動などの面において、どのように4年間を過ごしてきたのかを記録することで、学生それぞれの優れている点や不足している点などを把握し、4年次後期に開講される「教職実践演習」で活用するために導入されたものです。ただし、履修カルテは、大学側が学生それぞれの状況を把握し授業に活用することのみを目的としたものではなく、学生自身が自らの学修等を振り返り、自分自身を成長させていくためのツールとして積極的に活用することも必要です。履修カルテの作成や教職実践演習の履修を通じて、将来、教員になる上で何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。

＜履修カルテ作成項目＞

履修カルテは以下の項目について作成します。

①	教員免許取得に係る以下の科目の“ふりかえり” ●教科及び教科の指導法に関する科目 ●教育の基礎的理解に関する科目 ●道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ●教育実践に関する科目 ●大学が独自に設定する科目 ●その他の必修科目
②	学外活動に関する“ふりかえり” 【対象となる主な学外活動】 ●教育実習 ●ボランティア活動 ●その他教員としてプラスになる活動
③	資質能力についての自己評価

＜履修カルテ作成時期＞

	前 期	後 期
学生による履修カルテWeb入力期間	前期合否発表開始日～指定日	後期合否発表開始日～指定日
Web入力対象項目	●前期開講科目 ●前期中に行った学外活動	●後期・通年開講科目 ●後期中に行った学外活動 ●資質能力についての自己評価

＜教職実践演習の履修要件＞

4年次後期に開講される教職実践演習は、教育実習と同じく履修要件を定めています。次の要件を満たさない学生は教職実践演習を受けることができませんので注意してください。

履修要件

主たる教員免許状の取得に必要な教育実習を修了し、「教育実習」と「事前及び事後指導」の単位取得見込みであること。

9. 教職課程における主なスケジュール

学年	時期	ガイダンス・手続等	
		全般	教育実習関係
1年次	4月上旬	教職課程登録ガイダンス	
	4月上旬	教職課程履修費納入 履修登録届の提出	
	7月中旬	履修カルテ作成ガイダンス	
3年次	4月中旬		教育実習内諾依頼ガイダンス
	4月中旬～		教育実習依頼手続開始
	12月中旬		教育実習承認申請ガイダンス
4年次	4月中旬		教育実習事前ガイダンス
	4～5月		教育実習事前打合せ会 (実習校において実施)
	5～6月		教育実習 (日程は実習先により異なる)
	実習終了後		教育実習記録提出
	7～8月	教員採用試験 (日程は受験地により異なる)	
	11月下旬	教育職員免許状一括申請ガイダンス	
	3月卒業式	教育職員免許状の交付	

※スケジュールは現在の予定です。詳細はS*mapのジャーナル、掲示、ガイダンス等で随時ご案内します。

10. 教職課程カリキュラム表

① 教科及び教科の指導法に関する科目

「教科及び教科の指導法に関する科目」は、その教科の専門的知識、指導法等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により教科ごとに修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。網掛けの授業科目は、その科目区分における「一般的包括的な内容を含む科目」（各科目区分において修得すべき内容を網羅的に取り扱う科目）であり、免許取得要件上、必修又は選択必修として設定されています。

履修にあたっては、必修及び選択必修の要件を満たした上で、法定最低修得単位（高一種 24 単位以上）を修得する必要があります。

文化情報学科

高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数 ※1			本学の開設授業科目		単位数 ※2	備考	
科目区分	各科目に含める必要事項	単位数	必修	選択			
教科及び教科の指導法に関する科目（高一種 24 単位以上）	情報社会・情報倫理	1	文化情報論		2	21 単位以上修得	
			メディア・リテラシー	2			
			情報産業		2		
			情報社会と情報技術		2		
			情報通信論		2		
			情報ネットワーク社会論	2			
			経営情報システム		2		
	情報と法		2				
	コンピュータ・情報処理（実習を含む。）	1	コンピュータと情報Ⅱ		2		実習を含む。
			情報科学基礎		2		
			情報処理論	2			
			情報処理演習	1			実習を含む。
			人工知能		2		
			プログラミング1		2		実習を含む。
プログラミング2				2	実習を含む。		
ソフトウェア論		2					
情報システム（実習を含む。）	1	データベースシステム	2		実習を含む。		
		情報システム論	2				
		知能情報システム		2	実習を含む。		
情報通信ネットワーク（実習を含む。）	1	データベース演習		1	実習を含む。		
		インターネット基礎		2			
		情報セキュリティと倫理	2		実習を含む。		
マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）	1	通信ネットワーク論	2				
		インターネット論		2			
		プレゼンテーション技法		2			
		デジタルメディア基礎	2		実習を含む。		
		web デザイン		2	実習を含む。		
		画像情報論		2			
		シミュレーション		2	実習を含む。		
三次元グラフィックス	2		実習を含む。				
情報と職業	1	映像・アニメーション制作		2			
		ビジネスと情報	2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	4	現代産業事情		2			
		情報科の指導法Ⅰ	(2)				
		情報科の指導法Ⅱ	(2)				

（2022 年度以降入学生適用）

科目名 …一般的包括的な内容を含む科目

※1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の法定最低修得単位数は、高一種 24 単位である。それに対し、上記の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は、高一種 25 単位となる。

法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」高一種 12 単位に算入することができる。

※2 単位数に（ ）のついている科目は、資格専門科目であるため、卒業単位には算入できない。

免許法施行規則に定める 科目区分及び最低修得単位数 ※1			本学の開設授業科目	単位数 ※2		備考	
科目 区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択		
教科及び教科の指導法に関する科目（高一種24単位以上）	情報社会・情報倫理	1	文化情報論		2	21 単位 以上 修得	
			メディア・リテラシー	2			
			社会学習論		2		
			情報ネットワーク社会論	2			
			メディア社会史		2		
	情報通信論		2				
	コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	1	コンピュータと情報Ⅱ		2		実習を含む。
			情報科学基礎		2		
			情報処理論	2			
			ソフトウェア論		2		実習を含む。
webプログラミング				1	実習を含む。		
情報システム (実習を含む。)	1	情報処理演習	1		実習を含む。		
		情報検索技法		2	実習を含む。		
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	1	情報システム論		2	実習を含む。		
		インターネット基礎		2	実習を含む。		
		情報セキュリティと倫理	2				
		インターネット技法		2			
マルチメディア表現・マルチ メディア技術 (実習を含む。)	1	通信ネットワーク論		2		実習を含む。	
		インターネット論		2			
		プレゼンテーション技法		2			
		デジタルメディア基礎		2			
		web デザイン		2			
		画像編集技法		2			
情報と職業	1	編集デザイン		2	実習を含む。		
		動画制作	2		実習を含む。		
各教科の指導法（情報通信技術 の活用を含む。)	4	三次元グラフィックス		2	実習を含む。		
		ビジネスと情報		2			
			情報科の指導法Ⅰ	(2)			
			情報科の指導法Ⅱ	(2)			

(2022年度以降入学生適用)

科目名 ……一般的包括的な内容を含む科目

※1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の法定最低修得単位数は、高一種 24 単位である。それに対し、上記の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は、高一種 25 単位となる。

法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」高一種 12 単位に算入することができる。

※2 単位数に（ ）のついている科目は、資格専門科目であるため、卒業単位には算入できない。

②教育の基礎的
理解に関する
科目等

「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」は、教師として求められる要素や知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学の科目が配置されています。

履修にあたっては、各免許における必修及び選択必修等の要件を満たした上で、法定最低修得単位（高一種 23 単位以上）を修得する必要があります。

文化情報学科
メディア情報学科

高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める 科目区分及び最低修得単位数 ※			本学の開設授業科目 (○印：必修、○印：選択必修)			備考	
科目 区分	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数	配当 年次		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	◎ 教育本質論	2	1		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		◎ 教職論	2	1		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		◎ 教育制度と社会	2	1		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		◎ 発達と学習	2	1		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		◎ 特別支援教育	2	1		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		◎ カリキュラム論	2	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	8	◎ 総合的な学習の時間の指導法	1	2		
	特別活動の指導法		◎ 特別活動の指導法	1	2		
	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		◎ 教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む。）	2	2		
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		◎ 生徒指導と進路指導	2	3		
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		◎ 教育相談	2	3			
教育実践に関する科目	教育実習	3	◎ 事前及び事後指導	1	3・4	} 2 単位以上 選択必修	
			○ 教育実習	4	4		
			○ 教育実習 A	2	4		
			○ 教育実習 B	2	4		
	教職実践演習	2	◎ 教職実践演習（中・高）	2	4		

(2023 年度以降入学生適用)

※ 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」の法定最低修得単位数は、高一種 23 単位である。それに対し、上記の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は、高一種 25 単位となる。法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」高一種 12 単位に算入することができる。

「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の他学部・他学科履修について

「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の履修にあたっては、所属する学部・学科において同一時に履修を希望する他の科目がある場合に限り、他学部・他学科（教育学部を除く。）で開講される同一名称の科目を履修することができる。

通常の履修登録方法とは異なるので、他学部・他学科での履修を希望する学生は教務課まで相談に来てください。

③大学が独自に
設定する科目

「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のうち、最低修得単位数を超えて修得した単位数及び所定の「大学が独自に設定する科目」の単位数を合わせて、高一種 12 単位以上修得しなければなりません。

文化情報学科

高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数	本学の開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	生涯学習概論		2	
	生涯学習各論		2	
	学校体験活動Ⅰ		1	
	学校体験活動Ⅱ		1	
高一種 12 単位以上	最低修得単位数（高一種 24 単位）を超えて修得した ①「教科及び教科の指導法に関する科目」			
	最低修得単位数（高一種 23 単位）を超えて修得した ②「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」			

(2019 年度以降入学生適用)

メディア情報学科

高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数	本学の開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	学校体験活動Ⅰ		1	
	学校体験活動Ⅱ		1	
高一種 12 単位以上	最低修得単位数（高一種 24 単位）を超えて修得した ①「教科及び教科の指導法に関する科目」			
	最低修得単位数（高一種 23 単位）を超えて修得した ②「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」			

(2019 年度以降入学生適用)

④その他の必修
科目

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目であり、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の科目区分について、各 2 単位以上修得する必要があります。

文化情報学科

高等学校教諭一種免許状（情報）

メディア情報学科

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数	本学の開設授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2	
体育	2	健康とスポーツの理論	2	} 1 科目以上 選択必修
		スポーツ実習 A	1	
		スポーツ実習 B	1	
外国語コミュニケーション	2	外国語（英語 A）	1	
		外国語（英語 B）	1	
		外国語（英語 C）	1	
		外国語（英語 D）	1	
		外国語（ドイツ語Ⅰ）	1	
		外国語（ドイツ語Ⅱ）	1	
		外国語（フランス語Ⅰ）	1	
		外国語（フランス語Ⅱ）	1	
		外国語（中国語Ⅰ）	1	
		外国語（中国語Ⅱ）	1	
		中国語基礎文法	1	
		外国語（ポルトガル語Ⅰ）	1	
		外国語（ポルトガル語Ⅱ）	1	
		外国語（スペイン語Ⅰ）	1	
外国語（スペイン語Ⅱ）	1			
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	コンピュータと情報Ⅰ	2	
		コンピュータと情報Ⅱ	2	

(2022 年度以降入学生適用)

1. 学芸員とは

学芸員は、「博物館法」に定められた、博物館に置かれる専門職員です。その職務については、博物館資料の収集・整理、保管・保存、展示・活用および調査研究、その他教育普及活動等、博物館資料と関連する事業と定められています。

近年、各地に多種多様な博物館および博物館相当施設（国・公・私立）が設けられつつあり、有能な社会教育専門職員としての学芸員が求められています。
2. 学芸員資格取得について
 - ①博物館法第5条第1項第1号「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」に基づき、学則第24条の2により、学芸員資格修得に関する科目を設けています。
 - ②本学において学芸員資格を取得しようとする者は、学則別表第8に規定する科目を履修し、単位を修得しなければなりません。所定の単位を修得した者に対して、卒業時に「学芸員資格証明書」を交付します。
 - ③科目履修にあたっては、1年次後期に実施されるガイダンスを受け、履修費を2年次4月の指定期日までに納入し、履修登録をしなければなりません。
 - ④2年次後期以降の履修登録希望者は、至急教務課に相談してください。
3. 「博物館実習」
 - ①学芸員資格を得るために必要な科目の単位修得見込者で、博物館からの実習許可を得た者を対象に「博物館実習」を実施します。
 - ②「博物館実習」は、「博物館概論」「博物館資料論」「博物館経営論」の授業内容を基礎として体系的に行うので、以上の科目を3年次までに履修した学生を対象とします。
 - ③「博物館実習」では、学内実習（見学実習、実務実習、事前・事後指導）と館園実習を行います。実習先は県内の博物館のほか、他県でも行うことがあります（交通費・宿泊費などは個人負担となります）。実習を無断で欠席した場合は、原則として失格とします。
 - ④学内実習のうち、実務実習と事前・事後指導は、原則として、火曜日3・4時限に実施します。他の授業と重複しないように注意してください。また実務実習においては、毎回レポート課題があります。
4. ガイダンス

1年次後期（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できません。
5. 履修費

25,000円（2年次前期履修登録時期に納入）
6. 編入学生の学芸員資格取得について

他大学または短期大学からの編入学生で、学芸員資格取得を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。

※4月にガイダンスを受け、履修費を指定期日までに納入する必要があります。

7. 学芸員資格
取得に関する科目

(学則別表第8)

※○付数字は必修単位数

系列	最低必修単位	本学開講授業科目	単位数	開講年次	備考
学芸員資格取得に関する科目	2	生涯学習概論	2	2-4	1科目以上 選択必修
		生涯学習各論	2	3・4	
	2	博物館概論	②	1-3	
	2	博物館経営論	②	2・3	
	2	博物館資料論	②	2・3	資格専門
	2	博物館資料保存論	②	2-4	資格専門
	2	博物館展示論	②	2-4	
	2	博物館教育論	②	2-4	資格専門
	2	博物館情報・メディア論	②	2-4	
	3	博物館実習	③	4	資格専門

(2023年度以降入学生・2025年度以降3年次編入学生適用)

1. 日本語教員資格とは

日本語教員とは、日本語を母語としない人（主として外国人）に、日本語を教える資格（能力）を有する者のことを言います。文部科学省認定の「日本語教育能力検定試験」がありますが、本学の養成コースではその試験を含めて日本語教育能力を養うことを目標とします。

この資格（能力）を有すると、日本国内の大学、民間の日本語学校等の日本語教育機関、特別の外国人に特定された教育機関・施設（技術研修生、外国人子弟等対象）等の日本語教員となったり、さらに国際交流基金による海外の日本語教育機関への日本語教育専門家としての派遣などの活躍が期待されます。

近年、日本語を学ぶ外国人が急増するに伴って有能な日本語教員の需要が増え、日本語教員養成の重要性が一層高まってきています。そこで、本学部では日本語教員資格のための科目を開設しています。
2. 本学の日本語教育課程

「日本語教育機関の告示基準」（法務省入国管理局／2016年7月22日策定／2017年8月1日施行）及び「日本語教育機関の告示基準解釈指針」において、日本語教育機関における日本語教員の要件が定められ、2017年度以降入学生から適用されることとなりました。学則第24条の3に定める本学の日本語教育課程（2017年度以降入学生適用）はこれらの要件を満たした内容となっています。

本学の日本語教育課程を履修しようとする者は、2年次に履修費を指定期日までに納入し、履修登録をしなければなりません（ただし、編入学生は3年次に登録）。

学則第24条の3及び別表第8-2により所定の単位を修得した者に対して、日本語教員となる資格の取得に必要な科目の単位を修得したことを本学が証明する「日本語教育課程修了証明書」を交付します。
3. ガイダンス

在学生ガイダンス（日程は掲示で通知）にて実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できません。
4. 履修費

15,000円（2年次前期履修登録時期に納入）

5. 日本語教員資格取得に関する科目

(学則別表第8-2)

区分※	文化情報学部 開講授業科目	開講学科 ／資格専門	単位数	必修 単位数	開講 年次	備考 (最低修得単位数)
社会・ 文化・ 地域	文化情報論	両学科	2		1	5科目 10単位以上 選択履修
	日本の伝統と文化	文化情報学科	2		2	
	アジア文化交流論	文化情報学科	2		1	
	アジアのことば	文化情報学科	2		2	
	比較文化論	文化情報学科	2		2	
	日本文化論	文化情報学科	2		2	
	メディア文化研究	メディア情報学科	2		3	
言語と 社会	社会言語学	資格専門	2	2	2	2科目 4単位必修
	メディアと言語	メディア情報学科	2	2	2	
言語と 心理	メディア心理学	メディア情報学科	2	2	1	2科目 4単位必修
	認知心理学	メディア情報学科	2	2	2	
言語と 教育	日本語教材・教具研究 A	資格専門	2	2	2	7科目 12単位必修
	日本語教材・教具研究 B	資格専門	2	2	2	
	日本語教育方法論 A	資格専門	2	2	2	
	日本語教育方法論 B	資格専門	2	2	2	
	日本語教育実践論	資格専門	2	2	3	
	日本語教授法演習	資格専門	1	1	3	
	日本語教員教育実習	資格専門	1	1	3	
言語	日本語文法 A	資格専門	2	2	2	8科目 16単位必修
	日本語文法 B	資格専門	2	2	2	
	日本語学概論 A	資格専門	2	2	2	
	日本語学概論 B	資格専門	2	2	2	
	日本語表現法基礎	教養教育科目	2	2	1	
	日本語表現法	両学科	2	2	1	
	日本語論	両学科	2	2	2	
	言語学概論	両学科	2	2	2	

課程修了要件：必修単位数を含め、合計 46 単位以上履修すること。

(2020 年度以降入学生適用)

※文化庁が 2000 年 3 月 30 日に取りまとめた「日本語教育のための教員養成について」に示された 5 区分

1. 司書資格とは 「司書」は、図書館の専門的職務に従事するために必要な資格として、図書館法によって規定されています。図書館法とは、地方公共団体によって設置された、いわゆる公立図書館の運営に関して必要な事項を定める法律です。図書館における専門的職務としては、図書館資料の収集、組織化、保持、そして貸出・閲覧サービスやレファレンス情報サービスなどがあげられます。図書館職員が、これらの図書館サービスを十分に展開するにあたって、司書の資格は重要な要件であると考えられています。
- 司書の資格が図書館法によって規定されているということは、基本的には司書の資格は公立図書館職員の専門資格であるということです。しかしながら、大学図書館、学校図書館、専門図書館や企業の情報資料室、さらに国立国会図書館の職員採用においても、司書資格を重視しているところが少なくありません。館種を問わず、図書館で働く専門職員の資格要件として、司書は、一定の社会的評価を得ていると言えます。
2. 司書資格を取得するには 図書館法第5条、第6条には、大学卒程度の教養および、図書館についての専門教育を修得することによって、司書の資格が得られることが規定されています。履修すべき科目、単位、その他必要な事項は、図書館法施行規則によって定められています。これらの規定に基づき、本学部では、卒業に必要な科目単位数のほかに、司書課程を履修して、学則別表第8-4に掲げられた所定の科目の単位を修得することによって、司書の資格が取得できます。
3. 司書になるには 図書館で司書として実際に働くためには、館種を問わず、目的とする図書館の職員採用試験を受ける必要があります。代表的な例としては、公立図書館に勤務するための都道府県、市町村の職員採用試験、国立大学図書館に勤務するための国立大学法人等職員採用試験および国立国会図書館職員採用試験などがあげられます。このほかにも、企業の情報資料室や私立大学図書館に勤務するための一般的な就職試験など、さまざまなルートがあります。
- 司書として図書館で働く以外にも、書店、出版社、取次店など、書物の出版流通に携わる職業への道が開かれています。
4. ガイダンス 1年次10月下旬（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できない場合があるので注意してください。
5. 履修費 20,000円（第2年次前期履修登録時期に納入）
6. 編入学生の司書課程履修について 他大学または短期大学からの3年次編入学生で、司書課程の履修を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。

7. 司書資格取得に関する科目
(学則別表第8-4)

	図書館法施行規則 第4条に定める科目	単位	本学開講授業科目				備考	
			科目名	単位数		開講 学科		開講 年次
				必修	選択			
司書資格取得に関する科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2		文化情報	2	
	図書館概論	2	図書館概論	2		文化情報	1	
	図書館制度・経営論	2	生涯学習各論	2		文化情報	3	
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2			2	資格専門
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2		文化情報	2	
	情報サービス論	2	情報サービス論	2		文化情報 メディア情報	2	
	児童サービス論	2	読書と豊かな人間性	2			3	資格専門
	情報サービス演習	2	情報サービス演習A	1			2	資格専門
			情報サービス演習B	1				
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2			2	資格専門
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2			2	資格専門
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習A	1			2	資格専門
			情報資源組織演習B	1				
	2科目2単位以上必修	図書館基礎特論	1	学校経営と学校図書館		2		3
図書館サービス特論		1	学習指導と学校図書館		2		3	資格専門
図書館情報資源特論		1	デジタルアーカイブ論		2	文化情報	2	
図書・図書館史		1	図書・図書館史特論		2	文化情報	2	
図書館施設論		1	図書館施設演習		1		2	資格専門
図書館総合演習		1	卒業研究指導1*		2	文化情報	3	
図書館実習		1	—	—	—	—		

(2015年度以降入学生適用)

※ 福永智子先生または山本昭和先生の「卒業研究指導1」に限ります。

1. 司書教諭資格とは

「司書教諭」は、学校図書館法によって規定されている学校図書館の専門職員です。図書館法で定められた司書とは、資格要件も職務の内容も大きく異なっています。端的に言えば、司書教諭は教諭として教育の一端を担います。

学校図書館が学校に設置される目的は、学校図書館法によれば二つあります。一つめは「学校の教育課程の展開に寄与する」ことです。児童・生徒は総合的な学習で「世界の食糧問題」について研究したり、世界史で「ローマ帝国」について学んだりします。現代の学校では、探究型の様々な学習が展開されますが、その成否は学校図書館がどれだけ充実しているかにかかっています。司書教諭は学習センターとしての学校図書館を整備し、教育活動に参画します。

二つめは「児童または生徒の健全な教養を育成する」ことです。子どもの読書離れが深刻化する今日のマルチメディア社会では、読書の意義が再認識されていますが、日々の学校生活の中で、もっとも身近な読書環境である学校図書館の果たす役割は非常に大きいと言えます。強制的にではなく、児童・生徒がくつろぎ、楽しみながら読書ができるような充実した環境を整えることも司書教諭の重要な仕事です。

なお自治体によっては、教員採用試験の際に、司書教諭資格を有する人は加点されることがあります。

2. 司書教諭資格を取得するには

司書教諭の資格要件は、学校図書館法第5条に「司書教諭は教諭をもって充てる。この場合において、当該教諭は、司書教諭の講習を修了した者でなければならない」と定められています。すなわち、司書教諭資格には教員免許の取得が前提になりますので、司書教諭資格を取得したい人は、必ず教職課程を履修し、さらに司書教諭に関する科目を履修することになります。

履修すべき科目、単位、その他必要な事項は、学校図書館法施行規則によって定められています。これらの規則に基づき、本学では、学則別表第8-6に掲げられた所定の科目を開講していますので、これらの単位をすべて修得してください。

3. 司書教諭資格の修了証書

司書教諭資格の修了証書は、卒業年の翌年3月に、文部科学省から交付されます。この交付を受けるためには、卒業後の6月に、各自が書類申請しなければなりません。申請方法については、4年次に説明会を実施します。

修了証書の交付が卒業後になるため、在学中に作成する履歴書等に資格を記載したいときは「学校図書館司書教諭資格単位修得見込み」と記載してください。

4. 司書教諭になるには

1997年に学校図書館法が改正され、2003年4月より、一定規模以上の学校には司書教諭を置くことが義務づけられました。卒業後に司書教諭として働くには、おもに自治体の教員採用試験を受け、合格する必要があります。合格後は教育委員会による教員配置計画のなかで、司書教諭になるかどうかが決まります。私立学校の場合は別のルートになります。

5. ガイダンス 1年次10月下旬（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できない場合がありますので注意してください。
6. 編入学生の司書教諭課程履修について 他大学または短期大学からの3年次編入学生で、司書教諭課程の履修を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。
7. 司書教諭資格取得に関する科目
(学則別表第8-6)

司書教諭資格取得に関する科目	学校図書館司書教諭 講習規程の科目	単位	本学開講授業科目			備考
			科目名	単位数	開講 年次	
				必修		
	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	3	資格専門
	学校図書館メディアの構成	2	情報資源組織論	2	2	資格専門
			図書館情報資源概論	2	2	資格専門
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	3	資格専門
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	3	資格専門
	情報メディアの活用	2	メディア・リテラシー	2	1	文化情報学科
			情報メディアの活用	2	2	メディア情報学科 資格専門

(2011年度以降入学生適用)

1. 社会調査士とは

社会調査士とは、「日本教育社会学会」「日本行動計量学会」「日本社会学会」の3学会が相互に連携協力をして設立された「一般社団法人 社会調査協会（旧社会調査士資格認定機構）」において認定される資格です。情報化社会としての現代社会において、おびただしい数の社会調査が行われ、その重要性が高まる中で、大学・大学院等における社会調査教育の向上を図り、社会調査の知識と技能を持つ人材を育成することを目的として、社会調査協会は設立されました。今後社会調査の専門的知識を持つ人材が求められる中で、本資格の重要性は一層増すものと思われます。
2. 社会調査士になるための資格

社会調査士になるためには、「一般社団法人 社会調査協会」において定められた科目を大学で取得し、その後、同協会に資格認定の申請を行います。社会調査士資格取得に必要な科目は、下表のように定められています。
3. ガイダンス

在学生ガイダンス（日程はS*mapで通知）にて実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できません。
4. 履修費

履修費は徴収しません。しかし、定められた科目の単位取得後、「一般社団法人 社会調査協会」に対し、資格認定のために16,500円（税込）の審査手数料を支払わなければならないかもしれません。

5. 社会調査士資格取得に関する科目

社会調査士資格科目	授 業 科 目	単位数		開講 学科	開講 年次
		必修	選択		
A. 社会調査士の基本的事項に関する科目	社会調査入門	2		両学科	2
B. 調査設計と実施方法に関する科目	データ収集法	2		メディア情報	2
C. 基本的な資料とデータの分析に関する科目	情報検索技法	2		メディア情報	2
D. 社会調査に必要な統計学に関する科目	統計の世界【注1】		2	両学科	1
	データ解析入門		2		メディア情報
E. 量的データ解析の方法に関する科目【注2】	データ解析論		2	メディア情報	2
F. 質的な分析の方法に関する科目【注2】	フィールドワーク技法		2	両学科	3
G. 社会調査の実習を中心とする科目	社会調査技法	2		メディア情報	3
	データ解析技法	2		メディア情報	3

（2020年度以降入学生適用）

【注1】 文化情報学部開講科目を履修すること。

【注2】 E、Fよりいずれか1科目選択履修。

【注3】 Dについては、「統計の科学」・「データ解析入門」よりいずれかを選択。

星が丘キャンパス

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17番3号
TEL(052)781-1186(代) FAX(052)781-7030

- 生活科学部
- 国際コミュニケーション学部
- 文化情報学部
- 現代マネジメント学部
- 教育学部
- 看護学部

日進キャンパス

〒470-0136 愛知県日進市竹の山3丁目2005番地
TEL(0561)74-1186(代) FAX(0561)73-4443

- 人間関係学部
-